6555 \5-4-1

緑丘

1967 No. 57
奇数月発行

マッキンノン先生特集号

民芸木彫
菅谷重平

小樽商大
同窓会誌

SINCE 1876

結論が出ました——

「★サッポロビールは
最初のうまさが持続する」

●雑味・雑臭がないから　うまさが持続

ビールの味の総仕上は濾過の工程が受けもちます。サッポロビールは独自の方法で雑味・雑臭を完全に除去、味の純度がずば抜けて高いのです。
何杯飲んでも最初のうまさが味わえる————サッポロビールだけの秘訣です。

ダニエル・ブルック・マッキンノン先生 来日

マッキノンさんを出迎える旧小樽高商の同窓生たち（羽田空港で）

「ウラシマノキモチ」
マッキンノン夫人の
25年ぶり教え子と再会

（右）読売新聞掲載記事
（左）昭和7年（1932）秋
母校正門前のマッキンノン先生
（昭8）鈴木三七氏提供

ウラシマノキモチで（八月二三日）

マッキンノン先生 羽田空港に着く

ニギナカ小樽へ入る

ダニエル・ブルック・マッキンノン先生（七七）は全国八千の同窓生たちの善意と協力で招待され、Hマッキンノン夫人（六五）とともに八月二十三日午後三時、予定より三〇分早く羽田着の日航機DCAで二十五年ぶりに来日した。

空港には教え子の学習院大学講師大谷敏治先生、日航羽田空港支店次長林健三氏（昭一〇）苫米地俊博氏（苫米地先生長男）らの出迎えをうけた。東京支部としてもマ先生にシヨックを与えぬよう、ごく小人数でお迎えするという配慮がなされたようである。

読売新聞は二十四日朝刊に「ウラシマノキモチ」という見出しで到着の状況を報道した。

出迎えをうけたマッキンノンさんは「ウラシマタロウガコキヨウニカエッテキタオモイデ、ウレシクテ…」と感激に声をつまらせたと。

マ先生ご夫妻はホテルオークラに感激の一夜を明かし、二十五日苫米地俊博氏のご案内でマ先生がご希望をもらされた徳富蘆花公園を（京王線烏山）散策。蘆花記念館を訪問した。夕方から九時頃まで吉祥寺の苫米地俊博邸にくつろぎ、同家心づくしの日本食に舌鼓みを打つ。故苫米地先生ご夫人千代子さんも同席される。

「少しも昔と変ってはおられません。ただおつむが白くなったように思われますが大変ご記憶がよく小樽の昔の事、お祭のことなど日本語で上手にお話し下さいますし、奥様も横浜に永くおられた方ですから日本語がお上手で、わたくしども大変楽しくなつかしいお話で時間の過ぎるのも忘れてしまいました。

二十八日小樽にたゝれますが、野口様の和光荘に落ちつかれて、こゝを中心にお廻りになるようにもうかがっております」と千代子夫人が語っておられた。

小樽、札幌で歓迎を受け、特別講演をされて、九月十五日大阪・伊丹空港に到着。大谷先生夫妻、石田大阪支部長、蘆目副支部長、若山幹事長、大木基弘氏（大一一）、黒羽秀夫氏（昭二）、小池輝男氏（昭一一）などの出迎えを受けて国際ホテルに向った。

緑丘

全国版

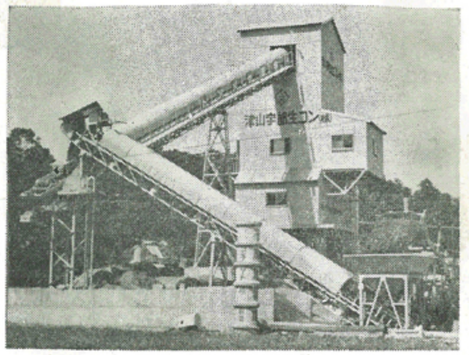
（通巻）No. 57号
（42年度 3号）

（編集責任者）
大阪市東区道修町3の12
塩野義製薬株式会社内
蘆目英三

（緑丘会大阪支部）
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール㈱内

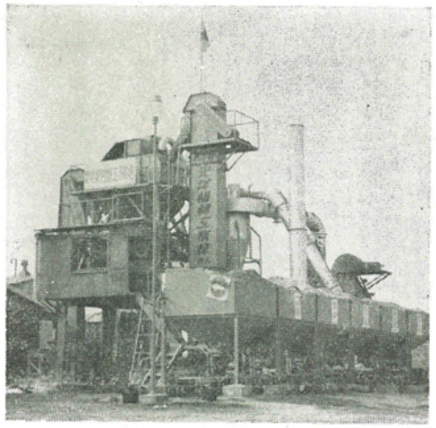
KYCの土木建設機械

KYC砕石プラント（100T/H）



KYCコンクリートプラント（20³T/H）

本社KYCビル



KYCアスファルトプラント30T/H

—製造品目—
砕石プラント／コンクリートミキサー
コンクリートプラント／バックチャスケール
アスファルトプラント／ベルト コンベヤー
クラッシャー

総合建設機械のトップメーカー

KYC光洋 機械工業株式会社

代表取締役社長　奥村正美

本社　大阪市北区南同心町1丁目31番地　Tel 大阪（358）3521（代表）
事業所　大阪・東京・札幌・仙台・名古屋・高松・広島・福岡・鹿児島

マッキンノン先生ご夫妻の招待計画の経過

一、昭和四十年二月　毛利昭子夫人（故苫米地英俊先生長女）来阪、マッキノン先生を日本にご招待することに付いて〝緑丘〟に取り上げて招待運動を起こす事の依頼があった。編集部は折角の申出ではあるが東京からこの運動を開始するのが本筋であり、父上を通じて佐々木理事長に申出で願いたい。これが正式承認となった暁には〝緑丘〟はこれを取り上げて本格的に軌道に乗ることに尽力する旨答えて別かれる。

一、昭和四十年五月　東京で開かれた緑丘会総会の席上、苫米地英俊先生より発議、満場一致で可決。

一、昭和四十年六月　神戸支部総会のあと第一声マッキンノン先生を日本へ呼ぼうと基金の申出があったのは昭八本間広松、水島弘の両氏。これを〝緑丘〟誌上（四〇年七月号）に取り上げて醵金募集促進をはかる。

一、昭和四十年八月　苫米地英俊先生より、大谷敏治および、神田正英（大正十五年卒小樽商大後援会事務局長）両氏に進行係を命ぜられ、全国同窓に趣意書を発し醵金募集開始。

一、醵金は同年十月末までに約一、五〇〇、〇〇〇円に達す。小樽緑丘会本部および東京支部にて銀行預金として保管。

一、その間大谷名儀にてマッキンノン先生に非公式の手紙を発し、計画の概要を伝え来日のスケジュールを打診す。返事あり次第正式招待状をだす予定。

一、しかるに同先生より何の返事もなく経過。

一、この間、サンフランシスコを訪ねし同窓各位、同先生に会われこの件につき話し合われたが、来日半分、ためらい半分、健康は上々との報あり。

一、大谷氏より私信数回、返事なし

一、昭和四十一年五月　苫米地先生逝去。

一、昭和四十一年秋　神戸、水垣敏正氏サンフランシスコにて同先生訪問、会談数時間先生はじめて来日の希望その他を正式に洩らさる

一、昭和四十二年一月　二月大谷氏より同先生の希望をいれた暫定スケジュール同封最後の打診を行う

一、昭和四十二年三月末　東京和久井功氏サンフランシスコにて同先生に面会、緑丘会員の招待をよろこんで受けたい旨のお言葉きく。

一、昭和四十二年三月十五日　正式招待状発信、理事長佐々木周一氏、小樽、札幌、大阪、京都、神戸の各支部長その他署名。（時間がないため、その他各地の代表の各位にお願いする余裕なし）

一、昭和四十二年三月三十一日附同先生より正式受諾来信、なお大谷氏宛私信にて緑丘同窓各位のご好意に感謝し、同夫人よりも感謝感激の来信同封さる。

一、引きつづき同先生より来日の際のいろいろのご希望来信あり。

一、これを勘案して暫定スケジュール作成同先生と打ち合せ完了。

マ先生旅行日程表

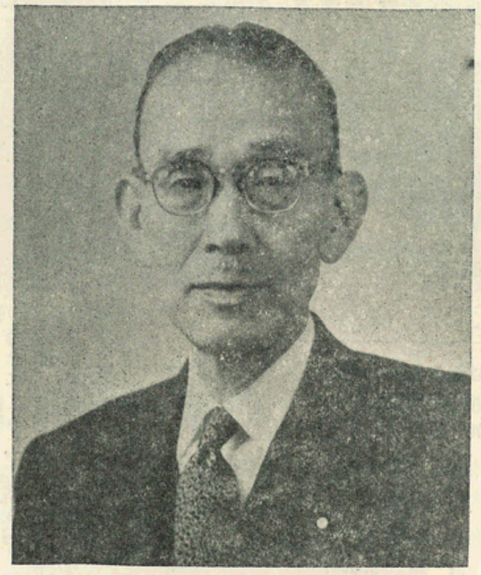
8月23日	羽田	着	15時35分
24日・26日・27日	東京滞在		
8月23日	羽田	発	10時20分
	千歳	着	11時30分（札幌）
9月15日	千歳	発	16時50分
	伊丹	着	19時35分（大阪）
9月24日	神戸	発	8時
	別府	着	21時30分（九州）
9月27日	福岡	発	
	下関	着	9月28日（下関滞在）
9月29日	下関	発	
	広島	着	
9月30日	広島	発	10時
	大阪	着	14時30分
	新大阪	発	15時35分
	名古屋	着	16時50分（こだま）
10月2日	名古屋	発	10時20分
	東京	着	13時95分（こだま）
10月12日	東京	発	

京阪神日程表

月日	時刻	予定	宿泊
9/15（休）	19：35	大阪伊丹空港着	国際ホテル
16（土）	17：00〜20：00	京・阪・神支部合同パーテイー（太閤園）	〃
17（日）		奈良見物	京都ホテル
18（月）		京都見物（桂離宮ほか）	〃
19（火）	8：33 / 11：50	京都発 / 金沢着 白鳥号	
	17：00	福井，金沢，富山川支部合同パーテイー	金沢（都ホテル）
20（水）		金沢見物	
21（木）	14：10 / 18：13	金沢発 / 大阪着 第2雷鳥	国際ホテル
22（日）	17：00	神戸着	オリエンタルホテル
23（月）		六甲山ほか神戸見物	〃
24（火）	8：40 / 21：39	神戸発 / 別府着 関西汽船	

切々たる願い今や達せらる

故苫米地英俊先生　生前〝緑丘〟に寄稿



小樽高商三代校長苫米地英俊先生

四〇年通常総会（東京）でマッキンノン先生を日本にご招待の件承認されるや、苫米地先生は「マッキンノン氏を憶う」と題して寄稿。四〇年七月号〝緑丘〟にこれを発表した。その苫米地先生の希望が愛弟子大谷敏治元教授の積極的招待運動推進役としての活動となり、こゝにマ先生の来日が実現したものである。当時の苫米地先生のご執筆をこゝに再掲する。

人間がその終着駅をのぞみ見る頃になり、過去を顧み思いを若かりし日に馳せる時、人生設計の空虚に驚く者がどんなに多いことだろう。

マッキンノン君はハーヴァート大学でバチュラーの学位を、さらに加洲大学でマスターの学位を得た人で米国内で立派な職場に歓迎される立場にあったのに、志を抱いて日本に渡来し、日本を知り、日本を熱愛するようになり、緑丘学園を終世の職場にするための人生設計を立て、由緒ある家庭に育った教養ある日本婦人と結婚し、三児をもうけた。長女ベティーさんは東京女高師を卒業、札幌の北星高等女学校で国語教師に就職し、次女リンコナさんは津田英学塾に、長男リチャード君は金沢の第四高等学校に在学していた。一家揃って日本びいきで楽しく幸福に暮していた。こうしてマッキンノン氏は四半世紀を緑丘生活に過し、恪勤精励、誠心誠意学園のためにつくした。その功績が認められ、外人教師には珍らしい勅任官待遇を受け、勲五等瑞宝章が授けられた。

マッキンノン君は人生設計の一還として本国で養老保険の契約を結び日本でも蓄財につとめた。こうした深慮遠謀も太平洋戦争のため水泡に帰し、罪なくして捕われの身となりあらぬ暴行を受けて前歯を折られ、家財は差し押えられ、第二次交換船で本国に強制送還させらるに至った。

子女も前後して帰米、後に残された素子夫人は辛苦と栄養不良のために病床に臥し、手廻り品の売喰いで病養につとめたが、間もなく恨みをのんで他界された。送還の際、マッキンノン君は心身困憊、衰弱の極に達して乗船の時は、生ける屍にひとしく、精神朦朧、何も弁えられぬ状態に陥った。この時同船した米人女性伝導師が、これを憐み、献身的に加護してくれた。その熱意によって事なく帰国が出来、その後も引き続き療養に力をかし、漸く本復させるに至った。これが縁となり両氏は結ばれて夫婦となり、現在も苦楽を共にして居られる姿は人類愛の極致ともいえよう。

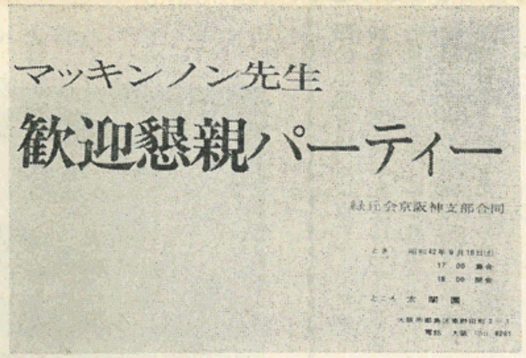
当時の日本政府は、契約の条項によらず、一方的に契約を破棄し、その月の俸給、帰国旅費も与えず、終戦後のインフレで日本での貯蓄も米貨三十六ドルにしかならなかった。生きるために、あるいは加洲大学で臨時講師を勤め、あるいは不馴れな仕事に従事して糊口をしのいで来たが、その後病に侵され、厚生老年々金一本に頼らなければならぬはめになり、小樽高商在職に対する恩給の配慮方を当時の学長大野氏に願出での連絡があり、自分は当時参議院で予算委員であったゝめ、その翌年度の予算決定の最終日に政府との話合いをつけ、希望が達せられた。

この事の一両年前に「日本政府から恩給を受ける資格があるから請求しては」と自分は同君に勧めたことがあった。この時マッキンノン君は「日本は昔の日本ではない。敗戦の結果、自国の民衆さえも養えないでいる。そんな国から恩給でもあるまい」と断った。マッキンノン君は、いつの間にか米国気質を忘れ、日本的考え方になったものか、と一寸驚いたことであった。

「今一度緑丘を訪れ、旧知誰彼と語り度い」というマッキンノン君の胸に秘められた唯一つの希望を叶えさせてあげたい。夫人が付き添うて来られるよう配慮すれば完璧で、どんなにその喜びは大きいだろう。日本のために尽し、日本のために苦難の道を歩んでいるマッキンノン君の最後の思い出を飾りたく祈ってやまない。

マッキンノン先生お待しています

京阪神　北陸三県、福岡、広島　各支部の歓迎態勢ほとんど整う



緑丘会各支部はマッキンノン先生来日の報に接し夫々歓迎懇親パーティーの準備をすゝめている。

【京阪神支部】

八月十日大阪支部は大谷敏治氏（マッキンノン先生受入世話人）の来阪を機会に、京阪神各支部代表の参集を願い、石田大阪支部長を中心に若山幹事長の歓迎懇親パーティー（案）に関する打合せを行う。

在阪滞在ホテルとその交渉、金沢行きの切符手配、京都市内見物特に桂離宮参観手配、タクシー手配など細部にわたり協議す。

八月二〇日マッキンノン先生歓迎懇親パーティー（京阪神合同）の案内状を幹事長から発送。

八月二四日第二回京阪神各支部の計画表に基く確認を行う。

【神戸支部】

八月二十四日の京阪神支部最終打合せにより二十六日正午神戸銀行協会に、湊支部長、本間幹事長を囲んで水島委員から二十四日の打合せ結果を報告。

京阪神合同パーティーに多数の神戸支部会員参加をすゝめる案内状発送の手配を協議した。

天候次第により六甲山にご案内申し上げる予定（九月二十四日）

【北陸三県　福井・金沢・富山支部】

長男のワシントン州立大・日本文学教授リチャード・マッキンノン氏が学んだ旧制四高（現金沢大）を訪ねたいとの意向に対し、関西スケジュールの中、九月十八日、十九日をとり、京都から八時三十三分発白鳥号で金沢に向う、丁度お昼十一時五十分に到着。

その夜は金沢に一泊。十九日市内見物のあと金沢駅前都ホテルで午後五時から福井、金沢、富山三支部合同の懇親パーティーに入る。

【福岡支部】

神戸を最後に関西に別れをつげ、別府へ入るのが九月二十四日午後九時三〇分、杉の井ホテル（観海寺）に入る。

二十五日　別府を朝出て九重高原を経て、阿蘇へドライブその日は阿蘇ホテル一泊。

二十六日　阿蘇ホテルから熊本に着き、市内を見物して福岡「山ノ上ホテル」に入る。

山ノ上ホテルで緑丘会同窓有志によるマ先生歓迎会を催す。

九月二十七日　福岡を経て下関へ向う。

この夜下関に一泊。

マ先生は一番最初に日本へ来た時豊浦中学の英語教師として赴任した土地であるだけにどんなにかなつかしい風物にふれることであろう。

前夫人シンコ・マッキンノンさんのお墓は長府にあると聞く。はじめてこのお墓をお詣りすることになる訳だ。さらに一泊に予定変更。

【広島支部　島根、鳥取、四国、岡山地区合同】

広島へ入るのは九月二十九日である。広島支部長　友沢和一郎氏（昭二）はこの機会に、島根、鳥取、四国、岡山の各支部に呼びかけ、マ先生歓迎会を開催する準備に大童である。

若しこの山陰、山陽合同の会合が出来れば三十九年十一月音戸の瀬戸で中野清一氏（広島支部長）の提唱によって実現してから四年振りの第二回会合が行なわれることになる。

友沢支部長はマッキンノン先生のお宿、お食事について洋式にすべきか、日本食にすべきか目下案を練ってる最中である。

【東京支部】

全てのスケジュールを終えて落ち付いたところで十月五日東京支部は椿山荘に於て盛大なる歓迎会を催す予定。

【小樽支部】

九月五日夕、小樽支部は小樽花園公園入口豊楽荘にマッキンノン先生を迎えて緑丘人七〇余名が集まり、楽しい歓談の一夕を過ごした。

【札幌支部】

九月十四日、札幌支部はローヤルホテルにて賑々しく歓迎会を開催した。

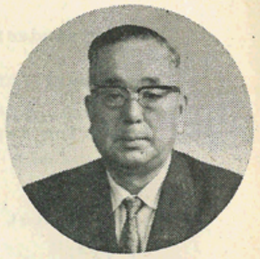
日　時　昭和42年9月16日（土）
17：00　受付開始
18：00　開会

場　所　大阪市都島区東野田町2—1　太閤園
電話大阪(351)8201

会　費　参加会費
会　員　2,500円
同伴者　2,000円
讃助会費　10,000円
（会員 御夫人共 参加会費含む）

会賀送金先　大阪市東区安土町4丁目19
北海道銀行　大阪支店
電話(252)2591
緑丘会大阪支部（マ先生口）
幹事長　若山永太郎（口座）

マッキンノン先生歓迎懇親パーティー（京阪神合同）



取締役社長　馬場清義
（昭和3年卒）

此の度，ささやかながら創業18年目の道標ともいうべき＜アンコール・ビル＞を設立いたすことができました。
設計は福岡に於いて高名なる岡田・的場設計事務所と三島建築設計事務所の両所，建設も地元の㈱橋詰工務店＝昨秋十月着工以来極めて順調に進捗し，しかも無事故で今日の落成を迎えた次第でございます。
終戦直後，米軍の駐留を契機として日本人の服飾が著しくアメリカナイズされた傾向に着眼いたしましてグンゼ・ストッキングの取扱いを始めたのがそもそもの出発でありましたが，当時西も東も知らぬ九州の土地，福岡市東中洲の玉屋さんの向側裏手にマッチ函ほどの店舗を設け4，5人でやって居ったことを想起しますと遙けくも来つるもの哉！との思いがいたします。
これも偏えにお得意様各位並にメーカー各位の御愛顧と，御支援の賜ものに他なりません。謹んで深甚の感謝を申し上げる次第でございます。

繊維製品　アンコール新社屋落成　綜合商社

アンコール株式会社

本　社・福岡市薬院二丁目6番18号　TEL代㊼8631番
支　店・神戸市灘区篠原北町1－46　TEL㊽2112-3番

Mr. McKinnon was clever enough to adopt catechism. Under catechism students cannot neglect what their professor says and it is not nesessary for students to note. It is not noting but asking and answering method that produces affection between the professor and his students.

Without neglect and with affection educational effect will be yielded. Surely Mr. McKinnon displayed such an ideal lesson.

In order to perform the ideal lesson he elaborately compiled his original teaching plan in advance first of all. It contained every useful and mistakable expression for Japanese students.

Secondarily, in addition to the superior teaching plan, he carried out the plan very skillfully. In conclusion his teaching performance was always vivid, interesting and charming. Due to his excellent teaching I was always interested in his lesson.

Let me introduce his tale that emphasized the importance of pronunciation. "In Japan ice cream venders' crying doesn't sound like 'ice cream', but sounds like ' I scream'. No doubt they scream. But why must they shriek? They don't scream for screaming. They scream for selling ice cream. Then they must put pause between ice and scream. In fact they put it between 'I' and Ce cream (phonetically-writer's note).' "

We students laughed and laughed. I thought, "Mr. McKinnon must be a live Mark Twain." Every time I hear venders yelling"I scream"I remember Mr. McKinnon's caution for us against wrong pronunciation.

In the end I sincerely hope that his land problem will be favorably settled for him.

May he live healthily and long!

変わらぬユーモア

マッキンノンさん小樽商大で感激の講義

教え子たちに招かれて第二の故郷、小樽を訪れている小樽高商（現小樽商大）の元米人教師、ダニエル・B・マッキノンさん（七七）は四日午前、二十五年ぶりになつかしの商大の教壇に立つて感激の講義をした。ユニークでユーモアたっぷりな講義ぶりは相変わらず―いささかも歳月を感じさせない若々しさだった。

招いた同窓生向けの特別講義のほか、在校生にも、と計画されたものだが『どうせやっていただくなら正規授業を―』という学校側の考えで、午前十時五十分から七一二番教室で一年D組の学生、約五十人を前に英語の講義がはじまった。教壇に立ったマッキンノンさんはさすがになつかしげ。机や黒板を指でさすって〝ちっとも変わっていない〟と笑わしたあと、なんのよどみもなく講義をはじめた。

教室の窓やドアを例にとって『イエス』『ノー』の使い方。一年生を意識してか、かんで含めるようなていねいな内容。黒板に『肉』という字を書いて見せ、学生たちに『それでは肉とは読めない』といわれると『オー、ニクラシイ』とジョークを飛ばすあたりは七十七歳の年齢を感じさせない若々しさ。〝聴講生〟となったかっての同僚、木曽栄作同名誉教授も『まるでこれまでずっとこの教室で講義をしてきたみたいだ』とびっくり。

Many Thanks to Mr. McKinnon

By Hachiro Terao
(a graduate in 1934)

In commemoration of foreign ex-lecturer McKinnon's coming to Japan, the editor of this organ magazine of our graduates' association has planned to issue a special number on foreign lecturers.

There were many foreign lecturers in my schooldays. Mr. McKinnon was the only lecturer whose lessons I took from my entrance to our Alma Mater through my graduation. So that I have many recollections of him. Besides, they are clearer than those of the other foreign lecturers.

Frankly speaking, I wish I could dedicate a welcoming address to him. To my regret, the date of the publication of the abovementioned special number is too late for his arrival and departure. Such being the case, I have determined to contribute "Words of Thanks to Mr. McKinnon" to "The Ryokkyū."

He had lots of merits. The truth that he was faithful to his duties was the best merit. Needless to say, his exhaustive nonabsence has proved his faithfulness. On the contrary, how often non-lesson was made by other staffs!

How effective his teaching was! Why was it so? Because he used neither textbook nor oral statement. If a professor uses a texthook, his explanation is apt to be neglected. If a professor resorts to oral statement, his students are compelled to note his dictation. In that case the professor is nothing but a dictaphone: And his students, recorders.

午後零時半までの百分授業を淡々と終えて『サンキュー』と学生たちににっこり。思わず拍手がわくほどのあざやかな講義だった。『小樽も学園も変わっていない。学生たちもちっとも変わっていない。夢にまで見ていたこの日の講義だったが、私までが二十五年の年月を飛び越えてしまった。本当にうれしい』―マッキンノンさんは講義を終えたあと目をうるませながらこう話していた。

マッキンノン先生道内日程

42、8、29 母校正式訪問
函館
洞爺湖
42、9、3 宝蘭、登別、白老
1 小樽着
3 小樽商大で講義
4 蘭島、余市
5 （一八時）豊楽荘（緑丘会）（小樽支部主催歓迎会）
6 母校で講義、夕方札幌へ
7―11 札幌―釧路―阿寒
12 温根湯―旭川
13 札幌帰着
14 札幌支部歓迎会（夕）
ローヤルホテルで

九月四日母校で学生に講義したマッキノン先生は同窓会の教え子のために六日午前九時から一〇時二〇分まで一時間半にわたって思い出の生涯を語っていただいた。

正午から、会議室で実方学長、金栄、杉江、新谷緑丘会小樽支部役員をはじめ中島事務局長、木曽、佐藤（一）、山本、鈴木、川田（稔）、川島、酒井、阪口ら緑丘人が座談会を開催。一時前応援団始め学生の歓送式（ストーム）でマ先生を送った。

（鈴木三七記）

センチメンタル・ジャーニイ

脇田勇（小樽商大教授）

からりと晴れ上がった初秋の一日、マッキンノン氏は宿願かなって、小樽商大の教壇に立った。教室のドアの手あかに黒ずんだノップのあたりをさして『あすこには私の指のあともついているのです。窓から見渡されるポプラも昔の通りですね』としばし懐旧談が続く。

一九二三年のある日、氏はこの一二九番教室にはいってきた。黒板に We want no American teacher と書かれてあった。当時反米のデモが国中に起り、小樽の町でも例外でなかった。氏は奥さんと去就について相談、滞日を決心したばかりであった。その事情を卒直に学生に伝えたのである。学生の中の一人が進み出て、その文のあとに but one とつけ加えた。前後二十五年にわたる本学の教壇生活はかくして続けられて行った。昭和十七年官憲は教壇から氏をスパイ容疑で連れ去った。『この手は陛下と三度も握手した手です』と言っても、当時の警官はこの手に手錠をかけました、と今は恩讐（おんしゅう）をこえて、淡々と語る氏でもあった。私は往年の氏を知らない。計らずも今回お世話している数日のうちに、その枯れた人柄と、小樽商大、小樽の町、否日本人に対する愛情にひしひしひかれていった。その温顔と物腰はヒルトン描くチップス先生にフューズしてならなかった。

特別講義にわざわざかけつけた昔の卒業生もいた。談話によると、学生一人一人の反応を確かめながら進めて行く態度は、昔ながらのものであるということであった。これこそ古くして新しい教授法の要諦（ようてい）と言えよう。

老先生の感情旅行は今しばらく続く。どうか、初秋の日本をじっくりかみしめ、再会の機会を得た諸々のなつかしい顔々を胸にきざんで、米国に帰ってください。ロバ先生、グッド・バイ・アンド・グッド・ラック。

（道新魚眼図から）

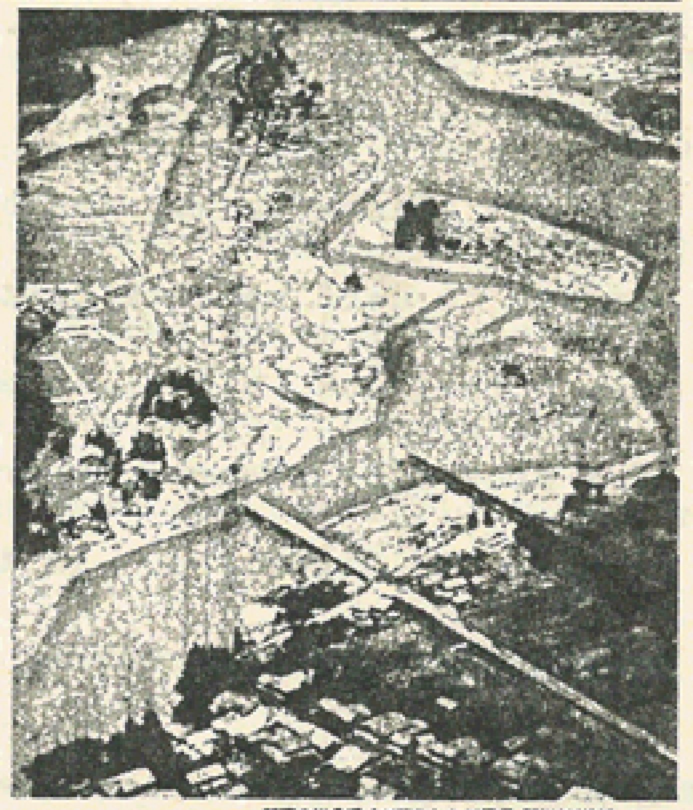
＜広告についておねがい＞

ますますよい「緑丘」を作るために広告の御協力を御願い申上げます。

一回（一頁全段）一二、〇〇〇円
一回（1/2 頁）六、〇〇〇円
一回（1/4 頁）三、〇〇〇円

年間契約の場合は割引いたします。
代金は掲載後で結構でございます。

昭和五年卒　一同愛の手を！
水害の関川村（新潟）佐藤正夫君のために



目をおおう惨状

屋根に『SOS』
空から見る豪雨のツメ跡
一面泥海、部落の影なし
新潟・関川村

彼は新潟県最北の仙境、国定公園荒川峡（温泉多し）を治下に持つ関川村村長として活躍して居られます。多数の会員諸兄は恐らく最近の彼に会っていないでしょう。昨四十一年五月初め山形市に於て五十嵐金五郎氏が地元幹事として主催せられた昭五会大会には御夫妻で御出席せられました。

同氏は関川村村長の公職の外、御子息達の佐藤病院を併設。山紫水明の地、平和な生活を持って居られましたが……関川村は新聞で見る通り穀倉の名にそむき、二年続きの大被害を受け村長の御苦労も察するに余りある現状です。

一、全国同級各位から見舞状をすぐ発送して下さい。直接上記本人へ昔の思出や自己の現状、心境等も彼を慰めるに充分でしょう。

一、見舞品は適品判断に困りますが、村上君の九月七日現在の調査報告では案外に衣料にお困りの様子、その他、高級飲食料品がたとえ少量でも適当でないかと思います。できれば御見舞品を彼直接宛又は村上君経由で送って下さい。水害地見舞には無料で送る方法があるように聞いています。

一、最後に形式的ながら義捐金を募集します。

一口、金五〇〇円也、何口でも結構。これは小生手許で取まとめ急贈呈します。但し急を要するので御諒承の向は折返し「現金同封」で小生の宅へ御送付賜り、新潟、村上君を通じて急拠贈呈したいと考えて居ります。

宛先
東京都杉並区今川三丁目七—八
北村太治郎
（電三九九—三三二六）

随時締切り

ロバ先生

〝ロバ先生〟帰る—。いまわしい戦争のさなか、スパイ容疑で小樽高商（現小樽商大）の教壇を追われた薄幸の米人老教師、D・B・マッキンノンさんが教え子たちの暖かい招きで二十八日、ヘイゼル夫人を伴って二十五年ぶりに小樽の土を踏んだ。

マッキンノン先生は二十数年間の教壇生活を通じ、このうえなく小樽を愛していた。日本人の奥さんをもらい、日曜日には家族うちそろってロバにまたがり、公園を散歩するむつまじいマッキンノン一家は〝ロバ先生〟として小樽市民からも慕われていた。

だが、太平洋戦争はこのしあわせな一家をたちまち不幸のどん底につき落としてしまった。昭和十七年三月、マ先生はスパイ容疑で強制送還され、一家はちりぢりバラバラとなった。当時のもようをある教え子はつぎのように語っている。

『あれはたしか英会話の授業中だった。特高とおぼしき警官が突然、教室にはいってきて先生の連行を求めた。二言、三言、はげしく抗議していたが、やがて何をいってもムダと悟った先生は、静かに本を閉じ、グッド・バイ、シー・アゲイン（また会おう）と言い残して寂しく去っていった』

マッキンノン先生の逮捕は学校はもちろん市民にとっても大きなショックだった。〝あのロバ先生がスパイとはとても信じられない…〟とだれもが心の中でそう思っていたようだ。だが憲兵や特高をおそれ、それを口に出し、積極的に救出をはかるといった動きまでにはいたらなかった。ただ、〝これは明らかに第二の小林多喜二事件だ〟と、かげでささやくのが精一杯の抵抗であったらしい。当時の情勢としてはそれもやむをえないことであったのかもしれない。

しかし人一倍、日本を愛しつづけてきたマ先生にしてみれば、どんなにくやしく、また寂しく感じたことだろう。とくに気の毒だったのはシンコ前夫人だ。病弱のため一人、日本に残された同夫人は、肉親の付き添いもなくひとり寂しくこの世を去っていった。

それだけにマッキンノンさんの帰りをだれよりも一番、待ちこがれ、喜んでいるのは地下に眠るシンコ前夫人であろう。

学校側ではできるだけ古い傷にさわらぬよう、そっと暖かく迎えてあげたいといっている。マ先生も終戦後、故苫米地英俊元学長に当てた手紙のなかで『心の傷はもういえた。いまはただ、もう一度小樽に行ってみたい。それだけを毎晩、夢見ている』と書いてあったそうだ。

その念願がやっとかない〝ロバ先生〟は二十五年ぶりに再びなつかしの教壇の前に立とうとしている。長い年月は恩讐（おんしゅう）を越え師弟の愛を復活させた。だからといってわたしたちの犯した罪が消えたというのではない。〝ロバ先生ようこそ〟という前に、もっとさきにいわねばならぬことばがあるのではないか。

（道新転載）

異動

栄転

土岐　秀雄（昭八）
東洋紙業株式会社東京支社
東京都品川区南品川四丁目十一番—十一号

桜井　純一（昭二三）
吉村商店取締役名古屋営業所長
名古屋市中川区十一番町一丁目二十二番地

田代　耕二（昭八）
東京建物株式会社取締役

水島　弘（昭八）
中日本倉庫株式会社常務取締役（大阪商船三井船舶）
神戸市生田区海岸通五番地　商船ビル内

寺山　朝（昭五）
太平洋炭礦㈱取締役社長

住所変更

中野祐良（昭一四）
東京都新宿区払方町九番地

小原　芳春（昭　）
東京都板橋区志村坂下一—一四—一五　志村コーポ六〇三号

野村　正己（昭一六）
仙台市弓の町六二

河西豊太郎（昭一四）
浦和市針ケ谷二丁目十四番三号
（表示変更）

（三四頁へ続く）

〝手塚寿郎先生の追憶〟申込について

〝手塚寿郎先生の追憶〟単行本二〇〇部限定出版を発表しましたところ多数のお申込をいただき有難うございます。

特集号記事のほか数篇と著作年譜を追加しまして（一橋大学板垣与一教授に監修いただき）唯今再校を重ねており、十月初旬にはお手許へお届け出来るように鋭意頑張っております。

またとない貴重な出版です。申込まだの方は至急御申出で下さい。

B6判二七〇頁　函入上製本　八〇〇円（送料共）
（一冊毎に番号を入れます）

緑丘編集部

異動

栄転

岩崎　政市（昭八）
北英熱器㈱
東京都目黒区上目黒一―一五三
沢村　重一（昭）
西村食品工業㈱
中野　祐良（昭一四）
住友海上火災保険東京営業第一部長（大阪支店）
永倉　正美（昭八）
凸版印刷㈱北海道営業所（ホクレン）
根田　順治（昭三）
大住商事㈱社長（住友海上火災）
諸橋　昌保（昭七）
函館ドック工事㈱
湊　静男（昭三）
神鋼電機㈱会長（神戸製鋼常務）
中田　乙一（昭七）
三菱地所専務取締役（常務取締役）
白木小一郎（大一五）
日興証券会長（副会長）
川村　勉（昭一二）
雪印乳業㈱取締役東京事業部長
近江　禎二（昭八）
チエルベルジ㈱
東京都港区赤坂三―二―六　赤坂中央ビル内
木村　実（昭一三）
東京芝浦電気㈱電子・照明・硝子主計室（姫路工場）
東京都中央区銀座西五丁目二番地
高橋　一男（昭四）
サツポロ共栄㈱名古屋支店（サツポロビール㈱）
亀山　英夫（昭一六）
藤田トラベルサービス大阪営業所長代理（東京本社）
藤沢　静雄（昭三）
極東石油工業㈱（三井物産）
河西　辰男（昭一四）
松下電器産業㈱サービス部長（商務第一部長）
小堀真三郎（昭三〇）
兼松江商㈱東京支社紙パルプ部紙業課（丸紅紙業㈱）
岩沢　正二（昭一〇）
住友銀行常務取締役東京支店長（東京事務所長）
吉川優幸（昭一一）
芝税務署法人税第三課長（蒲田税務署）
本田　正一（昭九）
山一証券㈱外国部
青木　匡光（昭三三）
㈱明治通信社（三菱商事㈱）
石井　忠雄（昭三三）
森永乳業㈱人事部人事課（阪神工場）
東京都港区芝五丁目三十三番一号
松橋　忠光（昭一九）
総理府内閣官房内閣調査室
東京都千代田区永田町一―六
丸山　堯（昭五）
東京法令出版㈱取締役

退任

山本　健一（昭一六後）
西日本紡績㈱取締役退任
小川　又治（大一四）
中滝製薬工業㈱会長退任
金岡達雄（辰男）（大一四）
北陸電力取締役退任
石黒　政夫（昭一四）
野村証券取締役退任

住所変更

古川　敬止（昭二）
埼玉県鳩ケ谷市桜町四丁目一〇番二三―一号（表示変更）
松尾　俊彦（昭三四）
岐阜県郡上郡白鳥町一〇三―一一
山本　俊雄（昭一三）
東京都世田谷区東玉川二丁目十五番地三号（表示変更）
四谷　宗義（大一一）
尼ケ崎市（南）稲葉荘三―六―六（表示変更）
山本安次郎（昭二）
大津市石山寺平津町四三〇―三
木村　実（昭一三）
東京都港区高輪一丁目十五番八―三〇一
永倉　正美（昭八）
札幌市手稲前田五―六八
井上　了介（昭一七）
秋田市保戸野すわ町八―一三
川口正巳（昭二二）
西宮市獅子ケ口町九七番地ノ八
室谷賢治郎名誉教授
札幌市厚別町下野幌四三五
諸橋　昌保（昭七）
有珠郡伊達町字末永町一七三の一八
馬場　清義（昭三）
福岡市薬院二丁目六―一八号　アンコールビル　アンコール㈱
鈴木　信亮（昭一七）
大阪市阿倍野区帝塚山一丁目一四―B一〇三
高崎　徹（元講師）
東京都練馬区大泉学園町二八七五
今井徳弥（大一一）
小樽市入舟五丁目六番一三号（表示変更）
久米　忠彦（昭九）
埼玉県入間郡大井町亀久保一九〇六―九三
横山　秀男（昭八）
札幌市南六条西十一丁目山岸マンション（九月末まで）
山本安次郎（昭二）
大津市石山平津町四三〇の三
本田　正一（昭九）
東京都杉並区善福寺三―一二―六
村山重三郎（昭一一）
東京都渋谷区富ケ谷二丁目二―一三　北海道富ケ谷アパート三〇一
竹中　正親（昭三一）
京都府乙訓郡大山崎村字鏡田三番地―八七
西川　正巳（大一五）
伊勢市中村町桜ケ丘団地
青木　匡光（昭三三）
東京都町田市玉川学園二―一六―九（表示変更）
秋葉隆一郎（昭一一）
北海道苫小牧市木場町四六―一七
石井　忠雄（昭三三）
東京都杉並区上高井戸五丁目二一五六公団住宅四―二〇三号
大津　博士（昭一八）
札幌市円山北町七―一〇　円山マンションA棟四〇二号
松尾正路教授
札幌市北十二条二丁目一番地
渡辺　文郎（昭九）
東京都練馬区中村三―三九

恩師近況

万年青年といわれる

小林象三先生

小林象三先生は大正九年から昭和二十五年まで足かけ三十一年間母校高商時代から商大時代にかけて教鞭をとられ、京都大学に赴任せられてからずうっと京都市左京区北白川下池田町一〇一番地の閑静なお宅に奥様と二人暮し、いまもなお母校時代と少しも変ることなき万年青年である。編集部に寄せられたお便りには「私は今年もまた日本音声学会主催の英語音声学夏期講習会の講師として七月下旬、上京、約一週間滞在、開会式の祝辞（英語）と二日間、全国から入参会した四百数十名の先生に講演いたし、まことに愉快でありました。ただし聞く方は？

先生という有難い職業のため、二ケ月も夏休みがあり、まことにありがたいことであります。九月には一般の講義に先立ち、神戸で三日間の集中講義をいたします」とあった。

現在京都産業大学で英語担当教授

久木久一専修大教授『保険論』
浜林正夫東京教育大助教授『社会思想史』
八月二十五日―三十一日
細井卓名大教授『財務管理』
円宗昭信北大教授『経済法』

七月の受講は百人程度で暑さのせいか受講率は低かったようだ。

★八月一日は観光の日であった。この日東京・帝国ホテル旧館で大橋運輸大臣から観光功労者として表彰された緑丘人がいた。それは茶谷豊彦氏（大一三）戦前、戦後を通じて小樽の観光開発に貢献。冬季オリンピック札幌招致についても努力し、ホテル経営では高度の良識を発揮して北海道ホテル業界をリードしている。現在北海ホテル支配人。

緑丘通信

★七月に入って商大の集中講義がはじまった。

七月十五日―二十五日　（毎日二時間）
島本融道銀会長『国際金融論』
七月十七日―二十七日　（毎日四時間）

穴（二）

室谷賢治郎

さて本題の穴の第一は小樽稲穂町Hホテルの角で見つけたものです。港から上陸する外人の船員たちに憩いの一ときをもって貰うねらいと見受けられましたのですが、英文で次のプラカードが外壁に貼り出してありました。

SELF SABISU CORNER H. HOTEL
SABISU は明らかにSERVICEの間違いで、こんな英語初等者でも分る筈の間違いを大つらに出させて平気でいるホテルの社長の顔が見たいと思いましたところ、それがまた何という皮肉なことでしょう。「泥棒を捕えて見ればわが子なり」ではありませんが、Hホテルの社長は緑丘学園の出身で、私個人からすれば、そもそも第一回の生徒です。Cさんの息子さんも既に十年前に緑丘を巣立っていますから、因縁は仲々深いと申さなければなりません。私はCさんに他の人を通じて間接にadviceをしました。「あのプラカードはそっくりホテルの責任だけでなく、つホテルの地形から言って小樽市の恥にならないものでしょうか」「社長が緑丘学園出身の経営者として学園全般の鼎の軽重を問われる徴候とされたのでは迷惑千万の大穴になりかねますまい」でしたが、SABISUプラカードはその後さびしく消え去りました。（つづく）

★故元母校教授大平頼母先生の葬儀が江戸堀日本キリスト教会で行なわれ、大阪外語、近大などの教え子、教会員など葬儀場溢れんばかりの参列者。七月十五日付を以て勲三等瑞宝章が賜られ、棺の上に温和なお写真と共に飾られていた。

★七月二十二日某紙投書欄に東京の某氏が『ベリカン文庫に「現代日本の歴史」という英文の本がある。この本の「占領」の章の中に全国の専門学校は大学と改称（リネーム）されたという一文があるのを見て近年大学教育の混乱と大学生の質的低下が叫ばれているがその源はこの改称にある』となげいていた。著者は戦前母校の教授をされたリチャード・ストーリー氏。

★八月二八日から東京・千代田公会堂で開かれていた「ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪と日本政府、財界の加担、協力を裁く東京法廷」は三〇日、アメリカ政府は有罪であり、日本政府も共犯であるとの〝判決〟をだして閉幕した。一〇月には第二回法廷を開き①民間の非軍事目標に対する爆撃とその規模②ベトナム人捕虜に対する虐殺虐待③強制労働収容所への収容、住民追放根絶などのジェノサイド（人種的皆殺し）――の三点を取上げ、最終的な結論を出すそうである。法廷メンバーは二十八人で、前学長加茂儀一氏ほか〝裁判官席〟について審理が進められたと朝日ジャーナル（九月一〇日号）が伝える。その結果はどうなるだろう。街に東京裁判をやり直せという看板があった。序にこれもやったらどうだろう。

読者の声

"戦歿学生の碑"
建設位置の二、三の私案

「緑丘」五六号"或る提案"で戦没学生の碑建設を知り、建設位置の私案を書いて見ました。

① 校庭案
港の見える校庭のポプラ樹の立つ反対側、即ち現在の原子計算機室寄りが最適。
長短—学園内であることが学生、教職員、緑丘人すべてにとって、常時訪れ、眺め、したしみ、その傍らで語らいをする意味に於て最も効果的である。ただし、校庭がだんだん狭くなり、新校舎完成の暁に於てあまりゴチャゴチャとした観にならないかを懸念されるおそれがないではない。

② 山上グランド案
往年建立の、歌人小田観螢氏の歌碑の後方、塩谷丸山方面を望む山上グランドの一角に土地の制約を思い煩う処なく広大な敷地を存分に使用して、最高、最大の碑を打ち建てることも痛快である。①案の短所を補い、天狗山一帯を市の公園とする小樽将来の発展構想からすれば、一汗をかいて此処に登る登高の風潮が生ずれば学生の保健上にも精神衛生上にも効果的である。

③ ドン山、旧ジャンプ台案
宅地不足の折であり乍ら、松山道遙道路から眺められる旧ドン山側の草ぼうぼうの段々畑の宅地は一体どうしたものであろう。此処を格安に手に入れるか、万が一敷地寄贈でもして貰える篤志家があれば、学園続きとして港を一望に収め得るこの地も悪くなさそうである。
何れに決定をされても①高い記念塔②戦没者碑③同じ素材で造られた広い憩いの台の三つを取そろえたい。
（Q生）

"夏の夜の犯罪"
の裁判を通じて思うこと
—大阪支部十日会速記録から—

江上芳雄（昭三）

裁判事件は社会の縮図のようなもので、時代の世相を反映し、特に刑事事件には戦後の人造り（家庭、学校、社会での教育）の成果、といってもその悪い面が、青少年犯罪における数の増加（刑法犯で戦前の六、七倍）、質の兇悪化、年令の低下、罪悪感の減少、犯罪動機の物慾から性慾への移行の形で現れてきております。強姦、強制わいせつというそのものずばりの性犯罪は、戦前の十数倍に達し、昨今のような夏の夜は、解放的な風俗のせいもあって激増しております。
夏の夜の犯罪を犯した青少年は異口同音に「大人は売春防止法で安直な性慾満足の場所であった遊廓を廃止し、俺達の手の出ない芸妓制度を残しているではないか。そのくせ、俺達若者に思いやりがなく、男性を悩殺するミニスカート等大胆な服装を流行させ、更に新聞、雑誌、映画、テレビのマスコミはエロ風潮に拍車をかけ、これでもかこれでもかの刺戟を与えているではないか。これで俺達に我慢しろという方が無理だ。政治が悪い、社会が悪い、俺達には罪がない」と弁解します。自由のみを主張し、責任を回避する現代世相の申し子というべきです。
戦後の刑事裁判を担当して痛感することは、人造り（教育）の重大さです。占領軍によって指導された戦後の教育は、全体主義を否定して個人主義を発展させ、日本を君主々義、軍国主義から民主々義、平和主義に変貌さす上に幾多の功績があったことは認めざるを得ません。しかし、全体主義、軍国主義の復興を恐れるのは余り「情」「意」の教育、人造り、人格造りの真の教育を軽視し、徒らに「知」の教育に偏した結果、利功な悪魔、慾望のみ強く自制心のない、馬力のみ馬鹿に高くてブレーキの効かないダンプカーの如き若者を育ててきたのではないかと、反省すべき秋です。
先日の某新聞に、「今の歴史の教科書は、読めば読む程日本という国が嫌になり、こんな国に生まれたことが悲しくなります」との投書が掲載されていました。我々の少年の頃は、「御民我れ生けるしるしあり天地の栄える御代にあえらく思えば」と目を輝かせていましたが、今日の青少年は、「敗戦国の主我れ生けるしるしなし三悪のはびこる御代にあえらく思えば」と訂正？すればぴんとくるとのことです。生き甲斐を感じない青少年は、利那主義、享楽主義、虚無主義のいずれかに陥ちるほかありません。全体主義や軍国主義と無縁で、しかも青少年に生き甲斐を感じさせる教育理念を確立し、これを実施することの急務を、夏の夜の犯罪が我々大人に警告しているのではないかと思います。
夏の夜の犯罪なる羊頭を掲げながら、狗肉のような御期待にそわない話になってしまいました。

計理士が亡びた

神部健之助（大一二）

計理士が三月限りでなくなった。随分永い間、人々に親しまれていた。計理士は小説「細雪」其他にも数多く載り、立派な職業として書かれている。然しこの職業も四月からは、過去のものとなって了った。
計理士法は昭和二年九月十日から施行されていたので、四十年もの間国民に馴染まれていた職業だった。
計理士法は、大正三年第三十一議会から大正十四年第五十議会まで七回に亘り議員立法で「会計監査七法案」「会計七法案」として提出され四回丈衆議院を通過した。大正十五年第五十一議会に政府案が成ったが未提出に終り、昭和二年第五十二議会でやっと両院を通過して可決成立した。
大正の頃の管轄官庁は、京橋木挽町に在った木造洋館の農商務省だったが、計理士断行の頃は、商工省となり、戦時中に大蔵省に移管されたのだった。
公認会計士、税理士、中小企業診断員等々の業種も皆計理士を温床として育成されたものだ。だから現代産業の発展には、最も貢献した職業だといい得る。褒賞ものでもある。三月限りで四十年もの間使い慣らされてきた「計理士」と別れたのは寂しい限りだ。
（公認会計士）

誌上尋ね人

菅野祐治（大一二）

「緑丘」に駄文を載せて頂いたのが機縁となり、今度緑士会に入会を四十五年ぶりで許されました。有難く御礼申上げます。果さねばならない債務がやっと返済し得た様な気が致します。多謝。
御厚意に甘える様ですが「緑丘」の神通力で大正十二年度卒業具島又喜君の消息を知る事が出来ないでしょうか。卒業後の消息が全然分らないのです。これは単に私丈の念願ではなく、「大和古寺」の著者であり山梨大学教授である井上政次君の宿願でもあるのです。具島君は確か福岡県の人です。具島なんて姓は当県以外には無いと思います。
御存知の方は編集部へ連絡して上げて下さい。

八月八日の夜、広島からの電話が内田賢一君の死を伝えてきた。何人かの広島の青年たちの顔がそれぞれに「内田が死んだ、内田が死んだ」と私をゆさぶる。あの顔、この顔を思い浮かべつつ、言い知れぬ孤独感にさいなまれる。
原爆で両親を奪われた青年たちの横のつながりをつくろう、と言い出したのはこの夜、三十五歳の生涯を閉じた内田君だった。昭和二十八年の暮れのことである。そのころ原爆孤児たちの、日本のあちこちに散らばっての、ひそかな自殺が相ついで起こっていた。
内田君の願いは、第一回原水禁世界大会が開かれた昭和三十年十月にやっとかなえられた。「あゆみ」グループの誕生がそれである。機関紙「あゆみ」のガリ版切りは彼がした。激しい一日の労働の後、夜おそくまでガリ版を切る彼の姿が浮かぶ。そのころ、すでに放射能禍は彼の血管の中で無残な行進を続けていたのであろうが、身体の表面には何のきざしも現われてはいなかった。グループのメンバーが百人を越えるようになり、三周年を記念する日、彼は仲間の一人と結婚した。三十四年二月彼の妻は妊娠した。そのころ「世界は恐怖する」という記録映画が公開され、放射能禍による無脳児や小頭児の出現が報じられつつあった。だが彼は「おれたちは必ず子供を生む」という、決意をひるがえさなかった。たとえ不具の子が生まれようと皆で守り抜こうと仲間たちは彼を励ました。それから二か月とたたぬ四月十五日、ひそかな進行を続けつつあった白血球の異常増殖がその姿をあらわにした。この年の十二月三十日、彼の愛児宏君が生まれた。宏君は本年四月、小学校にはいった。だが四月二十七日、慢性白血病の急性化が賢一君の上に襲いかかった。あの悪夢の日から二十二年、彼の肉体の中では凶悪な戦争は終結していなかったのである。一体、彼はどんな悪いことをしたというのであろうか。
遺伝学者は放射能禍の影響は三世代、百年の経過をまたねば何とも言えぬという。現代版の百年戦争！「私たちのような者を二度と出現させるな」と、原爆孤児たちは叫び続けている。戦災孤児たちは、かけがえのないリーダーを失った。現在、放射能禍の知識のひろがりと共に、これら青年たちへの就職や結婚の点で、奇妙な"差別"が普行しているという。国際的には平和運動の高揚にもかかわらず核保有国がふえる傾向にある。これらの矛盾を内田君は身をもって教えようとしていたのであろうか。私のいちばん愛していた内田君の死を告げられ、これ以上私のペンは動こうとしない。
（読売新聞転載）

積水化学工業㈱
チッソ㈱
旭化成工業㈱
特約代理店　プラスチックの綜合商社

田中弥商事株式会社

取締役社長　田中弥三郎（大12）

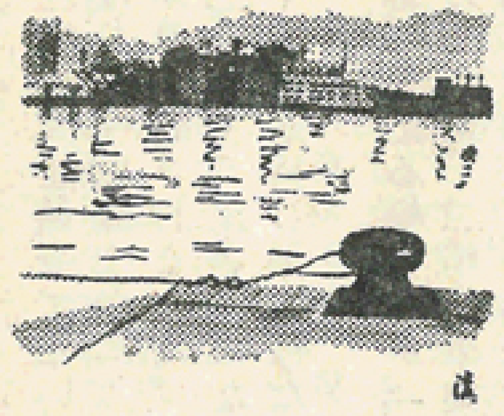
（本　社）　大阪市東区北浜2丁目74番地　TEL㈹6556代〜9
（東京出張所）　東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地　TEL㈹2271・5259
（九州出張所）　福岡市奈良屋町2番19号　TEL㈹3391・6022

毎日新聞連載

万国博へ出展など

わかり易い税金問題の解説

北條恒一
（昭一五　税政評論家）



政策で流動する税制

税金の制度は、国の政策のなかで流動している。毎年の税制改正をながめていると、そのことがはっきりわかる。ことしの改正のうち、その傾向をつかめるものをいくつかあげてみよう。

四十五年の三月には日本で万国博覧会が開かれる。これは国家的に意義のある大事業である。これに出展の契約をした法人や個人営業者で、青色申告書を提出するものは、出展に要する費用のうち、一定の金額を損金に計算できることになり、出展に参加する契約が早ければ早いほど、得をすることになっている。また、わが国の産業製造技術は、先進国にくらべてまだ立遅れている面が多く、このことは国際競争の激しいときに不利である。そこで試験研究費を基準年度で使った金額より多く使ったときには、ふえた金額の二五％を法人税額または所得税額から直接に控除して、租税負担の軽減をはかろうとする制度が新しくできている。

この二つは、企業が資金を使ったときに税の軽減がはかられる新しい措置の例であるが、資金を節減した方が税の軽減がはかられる措置もできた。

金のムダ使いをなくそうという見地から、毎年のように交際費に関する課税上の論議がさかんに行なわれる。今年度の改正にあたっても、交際費についての課税強化の声が各方面からあがったのだが、改正された内容は、期待されたほどの課税強化ではない。ともあれ、基準年度の交際費の支出額より節減したときは、損金にならない部分がいくらか少なく表現され、より多く交際費を使ったときは、多く表現されるようになった。損金にならない部分が多くなるか、少なくなるかは、そのまま税額に影響する。

新しい試みとして、景気調整のための課税の特例の措置が設けられた。これは景気の過熱化を防止する対策であって、日銀の公定歩合が引上げられたとき、一定の期間内に限って、法人税の延納にかかる利子税を日歩三銭五厘（普通は二銭）まで引上げることができ、一方、その期間中は、合理化機械などの特別償却も停止することとなっている。

（六月十二日）

相続した生命保険

老後の備えのために、自分が死んだあと残された家族の生活のためその他いろいろな理由で生命保険または交通事故等のための損害保険の契約をすることが多くなった。

さて、死亡したことによって死亡保険金を相続人がもらったとき、税務上どのように取扱われるのであろうか。死亡保険金のうち被相続人（死亡した人）が死亡する時までに払込んだ保険料に対応する保険金は、被相続人から相続人に残された財産のうちにはいるのである。その保険料のうち一部を相続人が払ったのであれば、それに対応する部分の保険金は相続財産とはならない。

ところで相続財産となった保険金の合計額のうち、各相続人ごとに百万円までは相続税の非課税財産として課税されないことになっていたのであるが、今回非課税限度額の計算方法が改正された。このことは相続税の負担が多少軽減されたことになる。簡単にいえば法定相続人一人について百万円まで課税の対象とならないのである。かりに法定相続人が五人のときは五百万円が非課税の限度額となる。五人の相続人が妻と子四人（A、B、CおよびD）であり妻の受けとった保険金が五百万円、Aが二百万円、Bが七十万円、Cが五十万円およびDが三十万円であったとき、妻とAの受取分は百万円をこえているが、B、CおよびDの分は百万円以下である。このような場合に妻とAの受取分のうち非課税となる金額を調整しなければならない。B、CおよびDの受取分がすべて百万円以下なので、この三人の受取分に妻とAの受取分のうちの各々百万円を加え、五百万円に満たない基準控除不足額を計算する。その金額は百五十万円になる。このうちから妻とAの法定の割合に応じて非課税となる金額を配分するのである。妻の方には百二十万円加え、Aには三十万円加えることになる。その結果、妻は二百二十万円、Aは百三十万円、Bは七十万円、Cは五十万円、Dは三十万円が課税の対象とならない受取分として確定する。その合計額は五百万円になり、妻の受取分のうち二百八十万円、Aの受取分のうち七十万円だけが課税される財産に含まれることになる。

このような計算をやらなければならないことになったのは、この例でもおわかりのように、従来のままでは妻は四百万円が課税対象となり、Aは百万円が課税対象となる。一方ではB、C、Dは百万円以下で基準となる非課税限度額までまだ幅が残っているのを合理化したこととなる。

（六月二十六日）

配偶者所得の減税

ことしの減税の大要は、所得減税千八十億円、相続税減税九億円および企業減税等が十四億円で、減税の合計は千百三億円となる。これに対して印紙税等の増税分が三百億円なので、実質減税は差引き八百三億円となる。減税のウエートは、ほとんど所得税の減税におかれているから、せっかくの減税措置をうまく活用することを考えなければならない。

最近、共かせぎの夫婦が多い。おもな働き手が夫で、妻が内職をしているとき、従来、妻に五万円以上の所得があれば、配偶者控除を受けられないことになっていたが、四十二年分からは、事業所得、給与所得、退職所得または雑所得による所得である場合は、その金額が十万円以下であれば、立派に配偶者控除を受ける資格があることになった。だから妻が小さな店を経営していたり、著述をしていたりして、一年間の収支計算をしてみて、所得金額が十万円以下であれば、当然、配偶者控除を受けられるわけである。

給与所得だけしかない場合は、四十二年分にかぎって、収入金額が十九万五千円までであれば、やはり資格があることになる。これはなぜかというと、給与等の収入金額から給与所得控除を差引くことによって課税対象となる給与所得の額を計算するのだが、ことしの分は、給与等の収入金額から、まず七万円を差引き、その残額について六十万円までは二〇％を差引くことになっている。だから、十九万五千円のときは九万五千円が給与所得控除の額となり、残り十万円だから、配偶者控除を受ける資格があることになる。

妻が貸家を持っていたりすると、その収入金額を基本にして計算される所得金額（必要経費差引き後のもの）は、不動産所得となる。この場合は、その所得金額が五万円以下でないと、配偶者控除を受けられない。株式等の配当による所得のときも同じである。

個人企業でも、青色申告をしている場合、専従者として給与をもらっているときの配偶者控除について、その取扱い規定が改正され、四十二年分の配偶者控除額は、一律に十四万五千円である。専従者給与の金額がこの控除額以下であるならば、その差額分を控除できた。専従者として、年十万円の給与ならば、四万五千円について、配偶者控除を受けられたのだが、ことしからそれができなくなった。これは、扶養親族が専従者給与をもらっているときでも同じである。配偶者控除や、扶養控除の方を受けようとするなら、専従者給与を必要経費に算入することをあきらめなければならない。

（七月二十四日）

二分の一簡便償却の活用

工具とか器具備品その他減価償却のできる資産がたくさんある法人はその一つ一つについて正確な減価償却をしなければならないことはもちろんであるが、税務申告にあたっては、その種類ごとに合計して償却額を明細書に記入すればよいことになっている。この手続きの簡素化が行なわれたときは、納税者の手数が相当はぶかれたはずである。ことしの法人税関係の改正は手続きまたは計算方法の簡素化という点が大きくクローズアップされているが、その一つに期中で取得した減価償却資産の二分の一簡便償却の範囲の拡大ということがある。

どういうことかというと、法人の計算期間が四月から翌年の三月までであるとき、この計算期間中に資産として計上しなければならない工具、器具備品などを六月とか十二月とか一月とか、さまざまな時期に取得したとき、それぞれについて取得して事業の用に供した日から期末までの期間分を減価償却書に計上しなければならない。十二月に取得した分については、一年分の償却限度額の十二分の四にあたる金額とか、一月に事業の用に供した分については十二分の三とか、ひとつひとつについて計算してゆくと、資産の数が多ければ多いほど事務量が大変なので、このように期中で取得し使用を始めた工具、器具備品については、その事業年度の全期間使用していた場合に計上できる減価償却費の金額の二分の一を計上することができるのである。

ある工具を事業年度の全期間に使用していたものとすれば、減価償却費が一〇〇計上できるが、事業年度の途中で使用を開始したのでその期間に対応する分としては二五しか計上できないというときでも、二分の一の五〇を計上できるという仕組みなのである。また、七五であっても五〇という二分の一を計上すればよいという計算手続きの簡素化ということから、この制度が採用されていたのであるが、四十二年六月一日以後に開始する事業年度からは、工具、器具備品ばかりでなく、機械および装置、車両および運搬具、特許権、実用新案権などの工業所有権についても、この制度を採用できることになった。この制度を採用すれば、すべてについて二分の一償却でやらなければいけないかというと、そういうわけではなく、機械および装置と工具は簡便償却で、その他は通常の償却ということでもよい。また、毎決算期に継続的にこの方法による必要もない。ただ忘れてならないことは、申告のときに届け出をしなければならないことである。

（八月二十一日）

戦塵餘録（六）

―苫米地英俊日記―

（小樽高商三代校長）

七月二十一日

技術院総裁多田中将曰く「本土内に敵を邀えうつための特攻兵器が続々現われつゝあると。本土外で邀撃する兵器は造れないのか。

その兵器は「必殺必中のもの」であり、欧米には「絶対になく又真似の出来ない特殊なもの」だとの事。「あくまで必殺必中の兵器を主張し必殺なくして必中なしの信念をもっている」というが、人間が新兵器の一部分のように聞える。

七月二十二日

通信戦勇隊が戦斗隊に転移。之れを先峰に漸次同じ道を歩くことになろう。軍政施行を戦勇戦斗隊の形で実施の肚。ドイツ敗戦の理由として次の三項を社説がとり上げている。

一、ドイツ人がソ聯軍に対し一種格別な恐威を持っていたこと。

二、ナチス職員と国民との相剋。

三、食糧事情良好のため生産自治の努力に欠けていたこと。

その他にドイツ人は団体的に勝れ個人的に弱いなどが挙げていた。

自分はこれを信じない。但し第二項は別である。他は敗戦絶望が然らしめたものである。戦前は寧ろドイツ人を恐れ、その軍隊に一目も二目もおいていたものである。

日銀発行高二百六十一億、インフレーションは憂慮せられる段階に達した。自由市場論をめぐって対立があるらしい。何れにしても救われぬ現状、道なきに非ず、行なわないにありの感が強い。我等の学校などは戦争のため予算減で首がまわらぬ。

運賃、乗車賃、郵税あらゆる政府の財源は倍加、若くは三倍、電燈、瓦斯、石炭も二、三倍。公定値のものは一度の引上げ一〇〇%以上、上らぬものは俸給だけ、それも方面によってはそうでもない。一口にいえば混乱そのもの。

七月二十三日

十二時近くB29一機、昨夜はP51一七〇近畿へ、九州はなかなか賑かそれでも今日の新聞によると「わが食糧自給に敵陣営重大関心」とリスボン電―同盟―を引用している「日本公表数字によっても、戦前の食糧需用の八割七分を供給している」と、ほんとでしょうか。実状は？バリックパパン―火陥放射器、戦車、迫撃砲、で攻めたてゝ来る。

こちらは「得意の切込」で敵に悲鳴を挙げさせている。そろそろ下り坂が近づいたものと見える。上海敵襲激化、本土に及ばざる遠し。

七月二十四日

警戒間もなく解除、小樽の頭上通過とか。音も聞えず。目にも見えず。大礼服を学校へ、その運命は知らず、二、〇〇〇機来襲。中部、四国、中国、東海へ。B29七〇〇機、基地小型機、艦上機など。呉地区へは三七〇、舟小島に二〇〇、合計大したもの、しかし例によって損害軽微、結構なことだ。「全支那人決戦態勢成る」と、大陸危い哉。

三頭会談「ソ聯の参加要望」とある。さもありなん。我には鬼門。

父島艦砲射撃、爆撃と艦砲射撃、これが連続され、本土作戦の準備も第三期。交通線寸断の第三段階に入ったらしい。或る軍人曰く「戦争に日本は勝っている。決して敗けていない」と。自分は軍人の常識を疑う。よって応えて云った。「勝っているかも知れないが、世界二〇億の人間は大方日本が敗退しておると思っていると見られる」すると「そんな考えを持つのは必勝の信念がないからだ。日本は敗けると思うものか」と打ち返えして来た。そこで、「必勝の信念とは何ぞや」と問い返えすと「必ず勝つという信念だ、その信念を堅持して戦えば必らず勝てる」というのが軍の信念だ」と答えた。それは必勝の決意であるかも知れないが信念ではあり得ない。「ヘボの碁打が名人に向って必ず勝つときめてかゝっても勝てるものでないからね、近頃一刀流の極意〝皮を切らせて肉を切れ、肉を切らせて骨を切れ〟を世間で流行語にしているが素人がそんな言葉を百遍繰り返えしても一刀流の達人ともなれなければその悟りも開けんからね」と応じた。すると、また「米国が名人、達人で日本が敗けるというのか」と喰ってかゝる。「僕はそんなことを云っているのではない。何んとしても勝たねばならぬ。そのためには学徒と共に屍を野に晒す覚悟はしている。しかし日本が戦争に現に勝ちつゝあるとは思わない。〝遺憾乍ら敵に押されている〟と軍部大臣の議会演説は勝利を意味するとか敗けていないとか、我々にはそれなりというに過ぎない。イタリーが日本に宣戦したなど滑稽であるが、その裏に伊太利が戦争の見透しをどうつけているかは明白に読まれるではないか」これでその話は打切りにした。

七月二十五日

警報が出た。十時頃であった。単なる偵察か。「短期決戦を焦る」とか「物価昂騰」「食糧不足に悩む」「離職続出」など敵米国の苦悩が紙面を飾っている。我が方は？

七月二十六日

「木製機量産こそ急務」と昨夕の放送を記事にして出している。しかしその中に云っている事柄が子供だましの楽観材料に満ちているのが不快だ。なにも新らしく丸太から挽き出さなくても目の通ったものなら疎開家屋の杉柾の天井板、桧柾の柱も立派な航空材量だ」「国内は七割が山林、原料は豊富だ」それから「竹がどうだの…」何の事だ。

「外人講師特集号」原稿募集

緑ケ丘に外人講師としてのぼった方々がどの位おるものか「緑丘五十年史」の中から拾い上げ、一表に纒めて見ました。

外人講師特集号を計画しましたが、年代を追って見ますと非常に印象の深い方と記憶から遠ざかっている方がありましょう。

小樽高商、小樽経専、小樽商大の各時代各時代でその講師の方々の横顔を学生時代にかえって記録に止めて置く事も意義があろうかと存じます。

何処にも緑ケ丘にのぼった外人講師の事をまとめた資料がございませんので別表の中から一人でも二人でも浮き彫りして下さい。

元何処におられてどんな関係で小樽の講師になられ、学校で何を教え、そして現在はここにこうして居られるという事まで分るならばこれも立派な資料になり、後世に残る唯一のものと存じます。

特集号の発刊を延期し原稿〆切日も一ケ月延長します。

原稿〆切　十月末日

写真　執筆関係外人講帳の写真がございましたら拝借したいものです。

（編集部）

氏名	専門	在職期間
F.W.ステッドマン女史	英	明44. 5. 1講師(非)―大 2. 5.31解嘱
ウイルヘルム・フート		明45. 4. 1講師――大 9. 2.29解嘱
L. ヒユーゴー・フランク	商品理化	大 2. 4. 1講師――大15. 3.31解嘱
H. ウオーター・テーラー	商品実験	大 2. 4. 1講師――大 5. 9.21解嘱
H. W. ウイルコム		大 3. 4. 2傭――大 6. 3.31解嘱
関 恩福	支	大 2. 6.25講師――大 4. 8.31解嘱 大 6. 9.30講師――大11. 7.31解嘱
T. ジヨーンズ		大 4. 5. 1傭――大11. 1.17解嘱
H. M. ケニヨン		大 6. 4. 7教師――大 6. 8.31解嘱
ダニエル・ブルック・マッキンノン	英	大 6. 9. 5傭――大13. 3.19兼任取扱 昭17. 3.31解嘱
K. バグレイ		大 7. 5.18嘱託――大10. 3.31解嘱
E. ジヨーンズ		大 7. 9.23講師――大 8. 3.31解嘱
N. A. ネフスキー	露	大 8. 5.31講師――大11. 3.31解嘱
ジヨオ・アルベール・デーゲン	仏・独	大 9. 9.28傭――昭 6. 7.20解嘱
アーノルド・ブラドリ・ラウンズ	英	大11. 1.19傭――大14. 7.31解嘱
シメオン・N. スミルニツキー	コレポン 露	大11. 3.31講師――昭 3.10. 1教師― 昭20. 3.31解嘱
関 益良	支	大11. 7.24講師――昭14. 3.31解嘱
R. M. カメロン		大14. 9. 1傭――昭 6. 3.31解嘱
F. ケーリー		昭 2. 4.15講師――昭 2.11.25解嘱
H. F. ベンスン		昭 2. 4.15講師――昭 2. 6.11解嘱
F. スミス		昭 2. 4.15講師――昭 2.11.20解嘱
R. P. モリソン		昭 2.11.25講師――昭 5. 3.31解嘱
T. M. フイギス		昭 5. 6. 4教師――昭 8. 3.31解嘱
J. W. エヴアンス		昭 6. 5.12教師――昭 8. 7.31解嘱
Y. バーシユ		昭 6.10.26講師――昭 7.12.20解嘱
大黒マチルド	仏	昭 6.10.14講師(非)―昭20.11.30解嘱 昭27. 5. 1講師(非)―昭36. 3.31解嘱
R. ヘンクル	英	昭 8. 1.31講師――昭10. 3.31解嘱
フラク・ジエームス・ダニエルズ	英	昭 8. 6.14教師――昭11. 3.31解嘱
ラランク・F. フアミンジヤー		昭 8.10. 7教師――昭12. 3.31解嘱
K. クレルクス		昭10. 3.31講師――昭14. 8.31解嘱
H. メーチン		昭11. 6.13教師――昭14. 3.31解嘱
G. R. ストリー	英	昭12. 6.15教師――昭15. 3.31解嘱
M. ダンカン	英	昭14. 9.30教師――昭15.12.31解嘱
W. クロル	英	昭14. 9.30講師――昭17. 4.30解嘱
F. F. ギルボーイ	独	昭15. 4. 1教師――昭15.12.31解嘱
C. ギルボーイ	英	昭15. 4. 1講師――昭15.12.31解嘱
寗 乃昌	中	昭17. 3.31講師――昭17. 8.31解嘱
韓 樹豊	中	昭18. 1.31教師――昭21. 1.31解嘱
ソラノ・デンケル	独	昭17. 4.30講師――昭20.11.30解嘱 昭21.11. 1嘱託――昭22. 8.30解嘱
K. シツケ	独	昭22. 9. 1講師――昭24. 9.30解嘱
S. デンケル	独	昭24.10. 1講師――昭25. 3.31解嘱
A. G. フーベル	独	昭25. 4. 1講師――昭36. 3.31解嘱
A. N. クレイグ	英	昭26. 4. 1講師――昭27. 3.31解嘱
L. クレイグ	英	昭26. 5. 1講師――昭27. 3.31解嘱
J. ゴードン・マックラウド	英	昭27. 4. 1講師(非)―昭35. 3.31解嘱
レオン・M. ゾルグロッド	英	昭30. 9.11講師――昭32. 9.10解嘱
R. K. リー		昭35. 4. 1講師(非)―昭36. 3.31解嘱
S. リー		昭35. 7.16講師(非)―昭36. 3.31解嘱

「緑丘」42年度申込者氏名（五）

（九月十日現在）

（あ）秋葉隆一郎、阿部忠、青木慎吾、有我栄一
（い）猪股貫一、石山豊応、伊藤実、伊部政次郎、石川孝一、今井徳弥、岩岡秀三
（う）宇尾五郎、上館正憲、梅原音二、上村甚四郎、大沼金治、奥原貞三
（お）大井義郎、小貫武、小川元護、仰木巌、近江光喜、大平善梧
（か）柿崎公治、片山正治、河西豊太郎、笠木申一、加地幸一、加藤羽衣松
（く）久保大亮、国重茂九郎、久米忠彦
（こ）小林傭佶
（さ）坂本芳弘、桜庭幸雄、笹島康平、佐々木八郎、佐藤虎夫
（し）白潟良造
（た）高橋正彦、谷本慶隆、竹島旬
（ち）地崎昭三
（つ）津久井七雄、堤正五郎、土屋龍郎
（て）寺山朝
（と）豊田正、栂健
（な）中野喜一郎、波川昇、中井正一、中川憲三、中村統一、中沢勝平、中曽貞一、長井彰
（の）野呂稲夫
（は）橋田和道、浜中学、波多野政治、長谷川順治
（ひ）平松新造、広田力一
（ふ）藤野戸憲也、藤宮寛司、藤野栄吉、深見吾六
（ほ）堀川一郎
（ま）松川一馬、松橋忠光
（み）三浦茂太郎、宮町昌宏、水島弘、宮崎善夫、宮脇保雄、宮前太郎、宮崎正明
（や）山里豊、山口民男、矢部三郎、矢野正郎
（ゆ）遊佐憲三
（よ）横山為祐、吉田平太郎

（現東海ゴム会長）の長兄哲一郎氏が、神戸高商在学時代武田先生に可愛がられていた関係で、三宅君と二人で、緑町の官舎に御伺するようになってからの事だ。

時には高商の丘に桜桃刈に、また大正十年の神嘗祭（十月十七日）には先生御一家四人と三宅、私の六人で余市へ林檎もぎに行った。

雪の降る夜に、官舎に御邪魔して楕円型の薪ストーブを囲み、夜更ける迄、御話やトランプに興じたものだった。帰り際に、途中寒いからと言われて、葡萄酒を、二、三杯いただくのが例だった。下宿への帰路、ホロ酔の顔に雪が降りかゝった、かみの日が懐しい。

先生は、私の卒業の大正十二年春に東京商大専門部教授として、東京に赴任され、市外巣鴨宮下に仮寓された。震災には御宅は助かったが、深川の倉庫に保管中の御蔵書の一部は焼失された。私の家番町が焼けたのでカラー・Yシャツ、ネクタイ、カフスボタン等々沢山の先生御使用のものを見舞にいただいた。

間もなく先生は、台北高商校長に栄転され単身赴任された。御留守中に家族は池袋二丁目や荻窪に移転された。二令息が人懐しがっていられたので、時々御邪魔して先生の御留守中の相談にも預った。鎌倉雪の下の大野様御宅にも宿りがけで行った事もあった。

恭一さん、続いて潔さんが患われ鎌倉などで療養されたが、御二人共二十才前後で他界されて終った。成績も良く御両親の下、何不自由なく育まれたのだったが、実におしい事であった。

先生は台湾から横浜の商業専門学校（Y校の後身）校長として戻られ居を中目黒の丘の上に新築され、御夫妻丈の御淋しい限りだった。

其処で夫人も亦二児の跡を追うかの様に、病死された。戦争の最中だった。そして戦災で御自宅を失われた先生は吉浜で余後を過すより他しかたがなかった。

戦後私は神奈川大学、芝浦工大、関東短大の教壇に立った。図らずも関東短大の教授会議が如水会館で開催された時に、新らしく先生が教授として赴任されるとの事で同席したのも奇縁だった。

先生は館林市成島の学校に吉浜から毎週一泊の予定で通っていられた。

小樽の頃は財政学や倉庫論を先生から教わった。御著書の英語商業辞典は大いに利用さしていただいた。何しろ教務主任で学校ではやかましかった先生だったが、私的には家庭円満の優にやさしい御仁であった。

（於百瀬廼舎）

おほらかの自然親しみ学ぶ子の
偲出多し緑丘の頃はも

（大一二・神部健之助）

恩師考

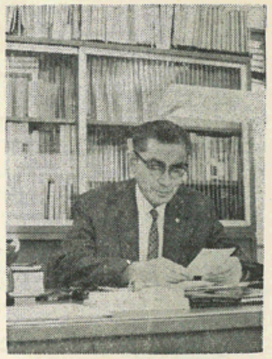
武田英一先生

先生の御一家は全部亡くなられ絶えて終った。

長男の恭一さんは、府立六中から芝浦の東京高等工芸に入学、卒業間もなく、また次男の潔さんは、奥様の御里の鎌倉の大野家を継いでいられたが、府立六中在学中に、何れも肺を患って続いて亡くなられた。槇子奥様も戦時中に亡くなられた。戦後先生御一人の淋しい生活が神奈川県吉浜町舟付で過ごされていたが、数年前にやはり他界されたので、今は思出のみとなっている。

先生の御一家の方々と、私が親しくなったのは、大正九年小樽小学の頃で、北斗寮に同宿の三宅省三郎君

僕の書斎



若山　永太郎（昭13）
（大阪・丸嘉機械KK専務）

人材の育成

うちの会社に於ける私の終生の最大の仕事は「人材の育成」である。

昭和十三年、小樽高商を卒業し伊藤忠商事に入社したが、其の当時の伊藤忠の総務部長は、中村信太郎常務であった。

今でも覚えて居るが、面接の時に、この人に眼鏡越しにジーッとにらまれた時は、身がすくむ思いがした。全く、眼光紙背に徹するとは、中村信太郎さんの様な人を云うのかと思った。

その中村信太郎さんが、戦後、御高齢になられてから、口癖にように私共に話されて居った言葉がある。それは……

「私は（中村信太郎さん）は伊藤忠で、上海支店長時代を初めとして、商売では損ばかりして居った。全く会社に御迷惑ばかり掛けてきた。然し、私は立派な人間を育てあげた。その人達が、今、伊藤忠で大いに儲けてくれて居る。私は、それだけを誇りにして居る。」

私は、この人に私淑し、この言葉が、私の脳裡から離れたことがない。これからも、この理想像に、少しでも近付き度いものと、念願している。即ち、「人材育成」こそ、私の終生の最大の事業であると銘肝して居るのである。

良書を集める

実方正雄現学長先生が、同窓各位からの熱烈なる説得により、いよいよ小樽商大の学長就任を決意した時、実方先生に、何が一番つらいかとお尋ねしたなら、「大阪市大研究室の図書と別れなければならぬのが一番つらい。」

と、述懐されたと、石田支部長から聞いた。立派な学者としての先生の経歴からして、そのお気持は、私にもわかるような気がした。

その時以来、私は「立派な図書を残す」と云うことは、私の会社に対する重大な使命であると決意した。

かねて、会社で経営全般に亘る参考書を集めて来たが、もっともっと真剣な態度でこの問題と取り組んでいきたい。私共の後継者に残す立派な図書を集めたい。

○マネジメント全般に関するもの
○セールスマンシップに関するもの

数年前より、社内でセールスマンシップの教育を、基本から徹底的にやり直しているが、最近のテキストには、翻訳本にさきがけて、努めてアメリカで出版される最近著を、直接取り寄せ、自分で翻訳の上、これを使用している。最近は特に、

○マーケッティングに関するもの

流通機能を仕事とする我社にとって、将来もまた極めて重要な問題はマーケッティング論であるとの確信を得た。

セールスマンシップの研究は、マーケッティング論の中のセールスマネジメントの一部門である。随ってセールスマンシップの研究は、どうしてもマーケッティングの研究に、其のレバートリーを拡大せねばならぬことになる。

それだけに最近は、特に、この部門にマトをしぼって、内外の良書を出来る限り集めている。

最近、我社のニューヨーク店を通じて次の数冊を購入した。

○Planning and Problem Solving in Marketing
- Wroe Alderson, and Paul E. Green

○Executive Action in Marketing
- ALFRED R. OXENFELDT

○Sales Administration Principle & Problem
- Bertrand R. Canfield

○Introduction to Sales Management
- Harry R. Tosdal

○Sales Planning and Control
- Richard D. Crisp

人と本を残す

「私の書斎」と云う題目とは、随分かけ離れた書斎になってしまった。

お恥しい次第であるが、私は自宅には、未だ書斎を持って居らない。私の書斎は、敢えて云うなら、会社に於ける私の仕事場である。

「後継者の為に、良書を残す」ことこそ、私の重大な使命であると思う。

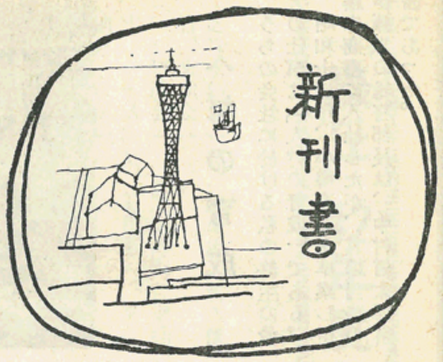
小樽高商に学んだばかりに、あの三年間、あの図書館に通って、図書とは如何なるものかを知った。

「人と本を残す」

もう一度、自分自身に云い聞かせ更に決意を固めている次第である。

さてこうして書斎を書いてみると人の書斎ものぞいて見たいものだ。札幌の戸谷君は闘病生活は長かったが次の記事をどうぞ。

次の「**僕の書斎**」はまだきまっておりません。書斎について自薦・他薦を問わず執筆の御協力をお願いします。



昭和二年卒渡辺牀吉氏の 句集〝魯羊集〟

句集〝魯羊集〟を渡辺牀羊（牀吉）氏が自費出版された。

魯羊集とは渡辺兄弟魯帆、牀羊の二人の頭文字をとったものであらう

魯帆は洞爺湖温泉町に、牀羊は堺市に夫々互に遠く離れて住み着いているが三十余年前に失明を宣言されたという兄を思う牀羊が提案をして還暦を記念して、この句集が生まれたとの事である。

魯　帆

月清し月に背けば湖白し
雲迅し湖心の島の照りかげり
深爪に密柑の汁の浸む燈下
雲海を分つ峠の草紅葉

「幸い今日までいくらか残っている視力と、おぼつかない記憶をたよりに」書きならべたという夫々の句には特に神経のこまやさを感じさせる。

冬されや伏せて久しき鯨釜
何ありて騒ぐ鴉ぞ冬木立
町の灯が見えそめかろき橇の酔

蝦夷富士さへ北窓開く塵を掃く

矢張り北海道の景色、北海道の生活を詠ったものが光っている。眼を患った作者がきびしい北海の生活に堪えつつも北海道の自然や生活をこよなく愛していられる心持が全編にあふれている。

牀　羊

牀羊は東京杉並当時の「富士遠近」「いかるがの路」「こげくさき」（戦災の思出をこめて）など一六〇余句を収めている。

いかるがの路

萬緑にそまり堂趾の石に坐す
頬にのこる胡粉の白さ春いまだ
旅終る枯野の詩をあたゝめて
ついてくる雲のしたしき枯野道

愛妻家の作者らしく奥さんを詠った作品に特に心を惹かれた。

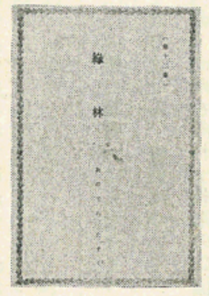
あまり清き初富士なれば妻子呼ぶ
妻老ひぬ花野に長き影すぎて
梅干すやかくて銀婚迎ふる妻

子の婚へ妻との旅にすゝき照る
蜜月おくる妻夕焼にそまりゐて
老いてますます美しく温い夫婦愛を羨ましく思う。

この句集刊行を機会に、また出直したいという著者のさらに第二の句集の出版されことを期待する。

小野寺　佐（昭一一）

「緑林」出版



会津短歌会監事、会津詩人協会員である小野寺佐氏（昭一一）は〝緑林〟六頁を発刊した。

平泉、蔵王山、那須岳、須賀川牡丹園、田中玄宰翁忌、福島医大病院入院、惜春譜、菩薩観音、大日如来、月光菩薩、弥勒菩薩、幽心抄、新聞、元旦、クラス会など一〇〇首以上を収めている。

彼は目を患い新潟、福島医大など再三入院をしていたが今は健在。

小夜更けて「第九」の楽の響く夜も耳鳴り吾れを捕えて離さず

病名欄よりはみ出づる程の病名を書かれし吾れのカルテの佗しさ

○弁慶をしのぶよすがもあらなくに
衣川の水ただに光れる

○みちのくの平安の都跡もなく一眺
渺茫春の陽眩し

○義経が終焉の丘高館の北上川の彼方春の山伏す

○風颯々樹蔭暗らき処延歴の昔を今に仏らは佇つ

○中尊寺樹深きところ天仁の春の仏の眠りしづけし

○みちのくの平泉の町春浅み義経が碑は荒れ朽ちて建つ

skin dew

朝と　お休み前に
5分間だけさいてください
スキン・デューに含まれた
天然の成分コラゲンが
あなたのお肌に
栄養としめり気を与え
1日中うるおいをたもちます

Paris・London・New York
Helena Rubinstein
ヘレナ・ルビンスタイン

営　業　科　目

電気工事
各種工事設計施工
高圧受配電設備
低圧配電設備
冷暖房設備
電気配電相談

冷凍機
パッケージ型空調機
各種冷凍機
各種暖房機
除温機ショーケース
冷機応用品一般

汎用機
各種搬送機械
ホイストクレーン
各種ポンプ
送排風機
電機圧縮機

商品
業務用電気品
ホイストモートルブロック
変圧器熔接機
各種電動工具機

日本電氣機器株式會社

取締役社長　天野雅司（大正15年）

本　社　大阪市北区曽根崎新地2の50　TEL(361)8871～9
神戸出張所　神戸市兵庫区西上橘通り1の1　TEL(56)5306

緑丘余話

緑丘人二百五十九人の〝戦歿学徒記念碑〟建立について

昭和16年(後)・17年・18年・19年卒先たつ

〝緑丘〟五六号に或る提案（小樽高商、商大の「戦歿学生の碑」建立について）を発表した。

読売新聞（北海道版八月十四日付）もまたこの提案と相前後して小樽商大戦歿者数を掲げ、戦歿学生の慰霊碑建立についてこれを報道した。

これによると「高商、商大を通じ大正十一年から昭和二十年までの卒業者二百五十九人が戦地で没し、とくに戦歿者の多かったのは昭和十六年卒の六十四人」という。

この読売新聞記事を読んだ緑丘人中でも昭和十六年後期、十七年、十八年、十九年卒の有志は在学当時の教授として唯一人商大に残っている松尾教授の来札を願い、八月二十二日札幌ロイヤルホテルで具体案主として正式に発起人を立てゝ推進するための意見交換が行なわれた。

緑丘戦歿卒業生慰霊碑建立の打合わせ会

母校松尾正路教授が多年に亘って念願していた緑丘戦歿者の慰霊碑の建立については、私共終戦二・三年前の卒業生にとっても同じく忘れることのできない願いであり、偶々その具体化の問題が昭和十八年卒在札同期会事務所（札幌市内札石ビル坂井税理士事務所）に対し、松尾教授から非公式にもたらされるに及んで昭和十八年卒在札幹事坂井貫二君を中心に、その前後の期に相談がもちかけられ、かくして初めての慰霊碑建立打合わせ会が左記により熱心に開催された次第である。

日　時　八月二十二日後六時
場　所　札幌ロイヤルホテル
参加者　小樽商大　松尾正路教授
　　昭和十六年後期卒　二名
　　同十七年卒　二名
　　同十八年卒　三名
　　同十九年卒　二名
　　合　計　十名

冒頭に松尾教授から、数年前の終戦記念日の北海道放送ラヂオ番組の為に緑丘戦歿学生の遺族を歴訪して以来、本慰霊碑建立の念願をもち続けてこられた旨の熱烈なお話があり、全員直ちに賛意を表し、明年の終戦記念日（昭和四十三年八月十五日）迄にこの実現にふみ切るべく種々の意見交換が行われた。

もちろん本案は緑丘卒業生全般に関する極めて重要な問題である以上、公式には筋の通った発起人を立て、全国の緑丘会本支部の協力を仰ぐことは不可欠であるので、その辺迄の犬馬の労をとるべく色々と細部に亘る打合わせに終始したわけである。

何れ近日中に、正式の発起人による公式な呼びかけが行われる筈なので多数の戦死者を出した期の各位はもちろんのこと全国の緑丘会々員各位の絶大なる賛助を願って止まない。

（昭和十八　竹山記）

〝緑丘〟テニスOBクラブ結成の気運

東京支部にはかってのテニスチャンピオンが揃っている。仄聞するに陸田清氏（昭二）小貫武氏（昭二）など緑丘人は寸暇をおしんでラケットを振っておるとの事。湊静男氏（昭三）も近く上京の機会に陸田氏を訪問して緑丘人のテニスOBクラブの結成と発会式を近く開催するよう交渉して全国に呼びかけたいとの事である。

若しこの話が実現するならば大阪から小池輝男氏（昭一一）神戸から本間広松氏（昭八）三原市から高田正明（昭九）小樽から斎藤進氏（昭一五）などかって対北大戦に腕を振った連中が馳せ参じようと発会式の一日も早いことを待ち望んでいるとのこと。

丘美会（美術クラブ）

全国展にまで発展させたい

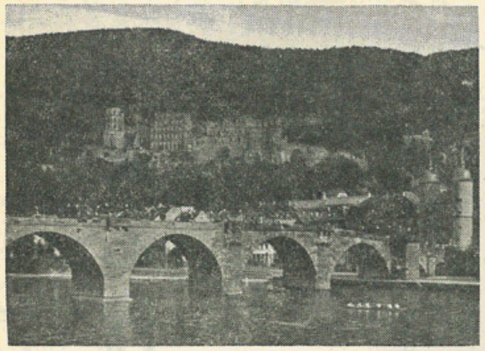
丘美会といっても昭和三十年以後の卒業生でないと分らないかも知れない。小樽商大卒の美術クラブのメンバーがよって結成している会である。去る八月十八日―二十三日まで札幌富貴堂ギャラリーで尾形圭介（昭三五卒二紀会同人）個展が開かれたが、彼の来道を機に丘美会のメンバー（九名）が札幌に集まり、この会のビジョンなどを語り合った。

北大には黒百合会があり、りゅうりゅうと栄えて毎年札幌で展覧会を催しているが一方丘美会はまだ先輩後輩の結び付きが全国的に及んではいないので大きな展覧会を開催するにいたっていない。是非、全国的にメンバーを揃えて、今すぐ開催は無理であろうが将来必らず開催する気運に持っていきたいものであると。いずれその具体案がこの〝緑丘〟誌上に発表される予定。

前学長　加茂儀一氏　日本代表として

世界連邦世界大会に出席

加茂儀一氏



前学長加茂儀一先生は去る七月、オスローで開催された世界連邦世界大会に日本代表として出席され、その帰途欧州各地を見学し、約一カ月余りの旅行を終えて、無事八月末羽田に帰られた。

多忙な旅行の中から編集部へ次の便りをジュネーブから寄せられた。

「七月二十八日、羽田発北廻りにてロンドンに立寄り、二十九日午後オスロ着、世界連邦世界大会に日本代表として参加し、欧州各国の国務相や国連大使等と、主として国連関係について討議しました。

オスローは寒い位で、夜が午後十時、夜明けが三時で寝不足に弱りました。

八月六日に会議を終り、コペンハーゲン、フランクフルトを経て、パリでユネスコ関係の用事をすませ、九日パリ発、自動車にてライムス、ベルダンなど大戦跡を見学、ルクセンブルグで一泊、この公園をあとにコブレンツからライン河畔を下りフランクフルトに一泊し、十一日夜ハイデルベルヒの旧地を訪れ、無事バーデンバーデン着、風呂に入りました。

スイス、イタリヤを経て月末帰国予定です。

緑丘人各位によろしく」

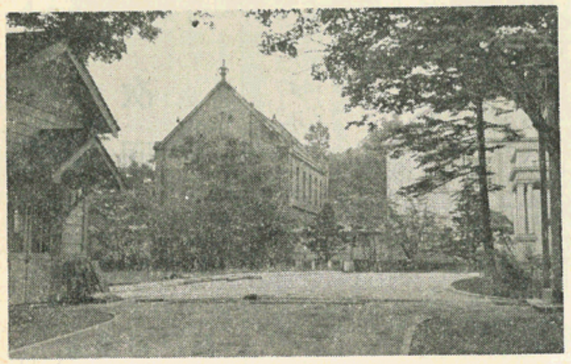
懐しの校舎（写真）

旧学園のシンボルとして保存

小樽商大の旧校舎が殆んど取り壊されて新校舎が建設されつつある。

緑丘編集部は〝手塚寿郎先生特集号〟に掲載された写真（相前後して撮影したもの）を引伸し（52cm×36cm）パネルに貼付けて学長室用に寄贈した。

実方学長から、旧学園のシンボルとして学長室に保存したい。むしろ絵といった感じだ、とおほめをいただいた。



松尾教授の来信によれば、

〝母校の記念写真とても評判よろし。学長室用は目下額縁屋で細工中です。学長はじめみんな喜んでいます〟とあり、このアイデアは同教授のすすめによるものである。

叙勲に輝く緑丘人

（本年度春の叙勲）

勲二等　瑞宝章　**瀬谷信義**（大六）

大正十一年司法官試補大阪地裁、控訴院、高裁判事、旭川大津地裁所長等を歴任、現在弁護士、大阪簡裁調停員（五六号記載洩れに付追加）

〝北海道人国記〟

北海道人国記が北海道新聞に連載されている。八月十四日で二二三回札幌から小樽に舞台は移って学会、財界の名士を一めぐり。勿論多喜二、伊藤整などの文学者を学生時代の背景も入れて語っているが人物の取り上げかたに一寸むらがあるのが惜しい。

まんぴつ五人集

或る人生街道

越崎宗一（小樽支部）

何回かロータリーに入会するようすすめられたが、厳しい出席率の精神的負担が重荷になってつい億劫になり、入らず仕舞になってしまった。

ライオンズの友人からは出席率はそう喧しくないからとて入会勧誘をうけたが、あの気障な帽子が気になり、これも入らず仕舞で申訳なく思っている。

ゴルフは若い時クラブを握ったことがあるが、現在は時間的余裕がないので見逃さざるを得ない。

麻雀は二、三十年前家庭麻雀をやった程度で、近頃のインフレ計算に怖れをなし、それにどうしても夜更かしになるので最近は殆んどパイに触れたことがない。

碁・将棋のようなデックリ型勝負ごとはてんで性に合わぬし、さりとて小唄・長唄のような粋と器用さは持ち合わせがない。

何という交際（つきあい）の悪い男だろうと思われるかも知れないが、本人はさほどでもないと思っている。

宴会などでもムッツリ型よりは賑かな方だし、キャバレーでもホステスのご気嫌をとる位のお上手は心得ている積りだ。

人が右だと云えばこちらは左だというような天の邪久の積りはないのだが、他人からみれば天の邪久なのだろうか。

たまの日曜には登山靴に足を固め軽いリュックを背負って若い人達と山登りする元気さは持っている。

どういう動機からかハッキリしないが、二十年程前に手ほどきをうけた裏千家の茶道は今だに続いている

然し器用でもなければ物覚えのよい方でもなく、それにマンネリ化に反撥を感じたりしているから、所謂上達とはてんで縁が遠い。器物を鑑賞しながら一服のめるのが何とも云えぬ気持ちなので、この天衣無縫の茶も案外長続きしているのだろう。

こんな気ままな型外れの人生もあることをご披露して責をふさぐこととする。

次は大泉行雄博士へ。

（大一一　㈱越崎商店）

アメリカから　帰国して

本田正一（東京支部）

先週のある夜、同期の渡辺文郎君から電話があって、同じ同期の塚越君（三井建設）から大阪の蟇目さんがやっている「緑丘」の「まんぴつ」欄に執筆のリレーを受けたが、どうしても都合があって期日までに書けないから君に再リレーしたいが、引受けて欲しいと云う。蟇目さんには昭和三十六年ニューヨークに赴任する前も、又ニューヨークに行ってからも寄稿を依頼されていながら一度も寄稿したことがなく、蟇目さんには大変オブリゲーションを感じていた。そんな処に渡辺君から『六年振りで帰って来た君の方が、まんぴつの材料が豊富な筈』と言われ、これ以上蟇目さんに対するオブリゲーションを積み重ねる訳に行かなくなり、この拙文をお届けすることになった。

思えば、僕程、特に海外で諸先輩にお世話になった者も少ないと思う学窓を昭和九年に出て以来、どういう訳か海外で仕事を持ち、住み着く期間が長かった。戦前は中国で、上海、汕頭、広州と転々とした時、戦後ニューヨークで過した六年間、幾多の先輩諸氏から物心両面の御支援を受けた。同期の友人達に言わせると僕はコスモポリタンだそうだが全くNO MATTER WHERE I MAY GO 小樽の同窓とのつながりが断えることなく、それに又海外でお世話になった先輩の数は多い。日本の国内で、同窓の親しみが強いことは誰方も経験し知るところだが、遠い異境で交わる緑丘メンバー間の親しみは格別なものがある。

吾々の卒業式で、亡き苫米地校長が卒業する吾々に向って、君達は学窓を出ても小樽高商という宿命的協同体（共同体）の一員として相互に結ばれているのだ、と言われた言葉が今も尚耳に残って消えない。

先輩諸兄にお世話になるばかりが能ではない、機会があれば緑丘のお手伝することも必要、又それが一つのつとめという気持もあって、ニューヨーク在勤中、当時、三井O・S・K・支店長の宇佐美先輩がニューヨーク支部長をしておられた後を引受けて三年前から支部同窓のお世話

次回

大泉行雄（大一一）
山岸次郎（昭五）
岡田春夫（昭一二）
七戸直次（昭一八）
小西征夫（昭二二）

を今年五月までするようになった。さして目覚しいお手伝もしないまま帰る様になり、三菱インターナショナル（三菱商事の現地米国法人）副社長の横山栄二先輩に後事を託すこととなった。

ニューヨークを立つ二日前、ニューヨークの日本商社銀行の社交クラブである「日本クラブ」で久し振りに支部の集りを持った。例に依って校歌、応援歌の合唱が会の終りに唄われたが、戦前派戦後派を問わず、宿命的協同体として緑丘スピリットを遺憾なく発揮して、その声は会場をとどろかせた。会場である日本クラブの丁度向い合せに、有名なカーネギー・ホールがある。ここにはリサイタル・ホールがあって、日本人でも先年、喜代三姐さんが俗曲、或はアイ・ジョージなどがこのホールで唄ったことがあり、僕も喜代三姐さんの日本調にノスタルジーをおぼえられたことがある。もしニューヨーク緑丘人のこの合唱をリサイタル・ホールで唄っても、ホールをゆるがせたことと思う。

丸六年振りで日本に帰って大いに戸惑っているところだが、今現実に昭和三十年以来年率平均十%の経済成長のあった日本の繁栄ぶりを目の当りにし、フィジカルな発展変化に眼を見張り、且つは日本人のバイタリティに驚嘆している。然しメンタリでは果してこのフィジカルな成長に見会う発展があるかどうか、僕は道義者ならずとも考えさせられる。その例になるかどうかはわからないが、帰国して間もなく帰省した際、ある仏寺の庫裡が鉄筋アパート式に改造されているのにかかわらず、墓所は旧態依然として荒れるにまかせている。何か事情があるにせよそのコントラストが余りにも激しく、考えさせられた。

然し、反面考え様によっては、このバイタリティがあればこそ、世界の金融経済の中心であるニューヨークに日本の商社・銀行が進出し、それと共に吾々緑丘の同窓が二〇名余も活躍し、英語の小樽の本領が発揮出来ているとも言えよう。

次回は同期の山岸次郎君にお願いしたい。

（昭九　山一証券㈱外国部）

友を語る

梅原音二（東京支部）

このところ東京は、夜まで三十度以上の猛暑で、全く眠られぬ夜が続いている。こんな或る日、緑丘「まんぴつ五人集」の原稿依頼が届けられた。三井造船の大井健一君からのバトンである。少々おこがましくも思ったが、十二年組の義理を果すこととした。

学校を出てから既に三十年、本月の下旬に小樽でその記念同期会を開催する運びになっている。二、三日前、岡田春夫君から突然電話があって誘いを受けた。国会や社会党首班問題の忙しい最中ではあったが、北海道料理の旨いところがあると言って、新宿裏の「炉ばた」に案内された。山小屋式の構えで、十分北海道の郷愁を想わせる店であった。私は近頃余り飲屋には足を運んでいない。嫌いな方ではないが、飲み歩くことを憶くうに感ずる様になっていた。学校を出て三十年の人生の皺がそうさせたのかも知れない。併し、岡田君とは久濶を癒した訳である。彼は記念同期会の世話役をやっていたので、小樽行を誘いに来たのである。私は今月始め社用で北海道に行って来た許りであるが、誘われるまま一応同期会に参加することにした。

岡田君とは少からぬ縁がある。学校時代彼は農業理論を得意とし、講演部で活躍し、私は編纂部で文学的な駄文を書いていた。そして学校の合併教室の裏にあった薄汚れた編纂部の部屋で、森川、飯坂、亀田、浅田、国島、岡嶋等々の諸兄と共に克く激論を斗わしたものである。私は卒業後間もなく上京したが、東京には身寄りが誰もなかったので牛込余丁町の岡田兄宅に約一カ月許り厄介になったことである。現在では北海道経済調査会の朝飯会に同席している。――実は、この朝飯会も欠席が多いので、彼に御小言を頂いている始末だが――。彼とはこんな関係で親しい友人の一人である。若き学窓の頃は、少くとも同じ場で論じ、考えたものである。併し、その後三十年の時日の経過は、それぞれの彫の深いものを内にひそめ乍らも、物の考え方、生き方において可なりの隔たりを感じさせている。これは、それぞれの生きて来た彫の違いが、そのままの形で顕われて来ているのかも知れない。

私は大蔵省生活十四年、諸々の経済立法の下積作業、企業経理関係の行政に掌わり、その間二、三年大蔵職組の役員をもなし、会社に転じてから既に十六年、その間専ら人事関係のじみな仕事に終始して来た。彼は学校を出て間もなく道会議員となり、代議士となって政治生活一筋に生き抜いて来た。その生活の積み重ねの違いが、今やそれぞれの立場を形成し、既に新らしき適応、開発に向って走り始めていると言うのでもあろうか。

私は何れかと言えば時間の累積の中で形成された歴史的なものに愛着を感じるが、彼は過去と現在をつなぐ時間の経緯を断ち裁り、果もなく横にひろがる空間の現実的なものに魅惑を感じているのであろうか。

私は「炉ばた」を出て、夜を活躍舞台とする彼と別れてからの帰りの車の中で、彼と話し合った言葉のはしはしから、こんなことを思ったことである。

立場はともあれ、友人として彼の健斗を祈ること切である。

次は当の岡田春夫君に御登場願うとしよう。

（昭一二　三菱地所株式会社）

最近の私

田森誠一郎（名古屋支部）

本当に暑い夏でしたが漸く峠を越したようです。朝夕は大分涼しい風が吹き始めました。内地での生活も十年を過ぎ暑さにも馴れた筈ですが今年の夏は大分こたえました。

当地へ参りまして既に六年、北海道の諸兄にもすっかり御無沙汰して終いました。終戦後各地より引揚げ再就職も決まらぬまま島田兄や角兄其の他同じ様な事情でふくれ上った同期の友の家を往来したのが懐しい思い出です。

島田兄や角兄のすすめで久し振りで母校を訪れ、松尾正路先生の御紹介を受け日綿実業に勤めてより丁度この十一月で二十年を迎えようとして居ります。会社勤めより学校の先生がふさわしいと言われた私ですが上役、同僚、部下に恵まれ、まがりなりにも今日に至りました。其の間、会計、簿記、商業英語、其の他もろもろが夫々の時期の私の役に立ったのは、驚く位でした。矢張り一度習った事が一応の自信を与えて呉れたのでしょう。

現在の仕事は内地繊維商売で緑丘の方には繊維部門に従事している方は少いようですが、不良在庫、不良債権、不当クレームの三悪追放に苦労しています。繊維も戦後の綿、スフ、人絹、毛の時代からナイロン、テトロン、アクリル、バイレン等合繊の時代に入って素材も豊富になり流行の流れも激しく、相場の動きだけに気をつけていればよいと言うことではなくなりました。資本自由化に伴って、今後益々この傾向を強める事と思います。また蒲郡三河等を控えた綿、スフ産地、一宮中心の毛織物産地も合繊時代を迎えて大きく変化している外に、岐阜が縫製品の中心として戦後大きく飛躍して名古屋の生産地としての特性も大きな変化を見せて居ります。

然し、地獄坂の上り下りで鍛えた心臓と北海道の酷しい冬に耐えるうちに養った酒の強さと忍耐心と持ち前の鈍感を最高度に利用すれば何とかなるとたかをくくる事を覚えましたし、チームワークを如何に上手にするかと言う事を第一に考えるようにもなりました。

只、勤務の密度が深くなればなる程、会社と住いとの往復だけだけで自分の生活をエンジョイする事が少くなるのが淋しいのと、得意先との交際上始めたゴルフ、麻雀が一向に上達せずに何時もかもられているのは残念です。運動神経と博才の不足をなげくのみでは芸がありませんので、現在強くなる方法を研究中です。

名古屋の緑丘人の集りである十日会にも欠席勝ですが、いずれ出席の上、諸先輩にもお会いしたいと思って居ります。

とにかく昭和十八年組は戦争で優秀な友を大勢失って居ります。生残った一人として彼等の分も長生きするのが義務でもあるし、当然でもあると考えるのは虫が良い事でしょうか。そして同期の友とお会い出来る事を楽しみにして居ります。

次は七戸真次君にお願いしたいと思います。

（昭一八　日綿実業）

年寄りのくりごと

中沢勝平（東京支部）

今から四十年前の早春、残雪の丘をふりかえりながら降りた。それから一度も訪れたことのない小樽の母校と、その町をたづねた。

この六月中旬、四十年ぶりの会合をやるというので、閑な身を幸いに、奮発して北行した。いざ出かけてみれば、何のことはない、一時間で北海道である。それから車で、昔は思いもよらなかった何号とやらの国道を走り、何処かの岬を回ったら、そこに小樽の町があった。眼をこらして眺めても、港内に船影なし。あるいは、岸壁の様な処にでも着いているのが、二、三はあるのか、しかとは判らない。

往年、太く青い煙筒の、英国ブルウファンネルラインの巨船が、港内狭しと停泊していた水面は、あれは一体どうなったのか。

町並みは、四十年の歳月を経て、殆んどが変りなく、そのまま木造の家並み。久濶の訪問者には、何よりの驚きであった。昔のまま、あの角の家の横で、あの時俺は立小便をした、という、そのままの舞台が、そのままに在った驚き、というよりこれは悦びであったが。但し、その舞台装置は昔のままではあっても、北海の風雪が四十年、責めたて続けた汚損と雨苔とを重ねて、見る影のない古色なのだ。南小樽、手宮あたりの石炭の煙に汚れ果てた駅舎や機関車。タクシーの運転手はその前を走りながら、あの『古代文字』を知らなかった。

学校へ行ってみた。地獄坂はあった、確かに。傷んだ舗装の坂道に、タクシーはゴトゴトと揺れた。その昔には、タクシーはなかった。雪の夜、円太郎式の馬橇で送ってゆくという街の女と乗り合わせて、寄宿舎の下までは登ったものだが。

校門もあった、昔の姿のままに。それをはいって、校舎玄関までの左手に展開していた筈の緑の広場、テニスコート、その向うに立つ商品館の赤煉瓦、図書館の薄みどり、そして、真正面にくりひろがる大景観、遠く増毛、留萌、石狩の野、手前にかすむ碓臼、朝里の山々、――それは、全く無いのである。

あの校庭、前庭ともいうべきか、その広場であったところには、既に学生会館とやら何とやらが、すき間もなく立て混み、而も正面玄関前には、土建屋の群れが、四角なビルを建てるべく、コンクリートや鉄材などをひっくり返しながら、総ての風

景へ眼かくしとなる半成の建物をブチ立てつつあった。

何処から昔の回想を眺めたらいいのか。茫然として立つ私の背後からコンクリートミキサー車が警笛を鳴らした。

感傷ならば、いうな、と謂うか。ひともとの白樺樹の蔭に丸く座って、師を囲んで聴いた講義は、もはや語り返しても、誰にも判って貰えない夢となったのである。

物の売り買いと銭勘定に関する学問には、風致も風雅も一切不要であって、電子計算機と、ビルディングと、テレックスがあればそれでよいのならば、何もわざわざ小樽の様な辺境で教習する必要はない。東京の下町あたりの、安手なビルの中でやる方が、寧ろ目的にかなうだろう。

町から仰いでみても、あの両翼を張り、中央が尖った校舎と、それを中心として心憎い風景構成の配慮は――、これも、もはや見られない。

『学園』は、何処へ行った。学園とは、少くとも小樽の学園とは、現代的な高層ビル、大ビルでも結構、但しあの周辺の山と林と、眼下に展開する海と空と、それらに融けこんで人間の思考が醗醸される処でなければ。

これは老人の繰り言。願わくは聴き流していただきたい。

その夜泊ったクラス会場、赤岩上の宿から眺めた港の入口へは、丸一日の間に、小さな貨物船が、僅かに一隻通って行った。

（昭二）

（まんびつ執筆者）

（客員）松尾教授
（大三）高橋徹男、下吹越栄吉
（大四）八木康之助
（大六）伊東小四郎
（大八）戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
（大九）菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
（大一一）宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重
（大一二）田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿弍、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
（大一三）古関周蔵
（大一四）畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
（大一五）増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善枯、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
（昭二）黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎
小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男、茂垣英夫
（昭三）佐竹繁寿、樋山三郎
（昭四）小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
（昭五）池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
（昭七）八家要、鹿島憬策
（昭八）土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七
（昭九）梅野弥太郎、塚越誠
（昭一〇）篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
（昭一一）浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、蟇目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷栄作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正
（昭一二）内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白潟良造、曽根重四郎、大井健一
（昭一三）江川裕一郎、若山永太郎
木村章三、山本俊雄、松ケ野寿夫
丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫、西谷作太郎
（昭一四）井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、壱岐隼雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、樫村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信
（昭一五）柿本恒一
（昭一六）相原正美、相田正、河上鎮男
（昭一六後）中村平之助、小林芳美
松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
（昭一七）籾谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
（昭一八）亀井尚一、湊誠、島田恵治
（昭一九）高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
（昭二三）牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
（昭二五）我満博仁
（昭二九）古内一成
（昭三〇）石津洋三
（昭三一）小田島和夫
（昭三五）佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
（昭三六）神田隆志

まんびつ執筆年次ベスト5

先輩・同輩・後輩に執筆バトンを渡して昭和三十三年から今日まで上記のように続けて参りました。

何年の年次がベスト5に入ったでしょう。

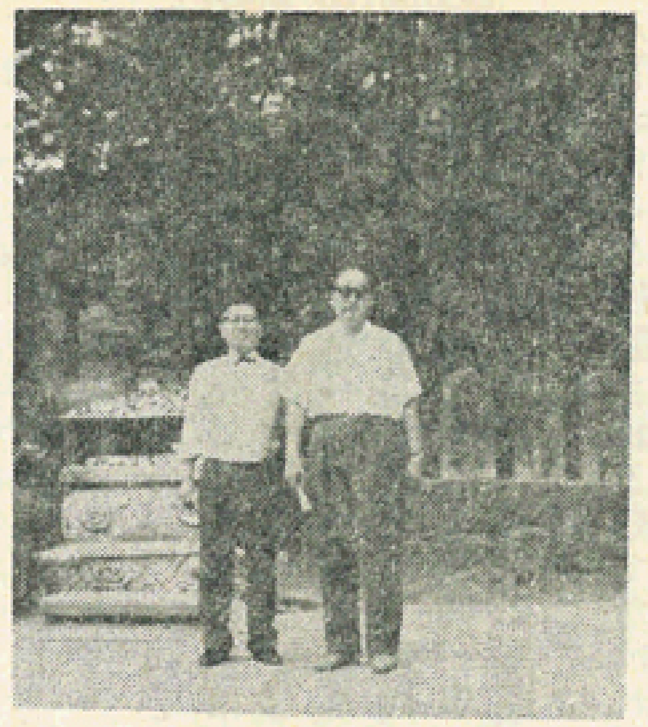
第一位　二十六名　昭和一一年
第二位　二十五名　昭和一二年
第三位　二十四名　昭和一四年
第四位　十六名　昭和　二年
第五位　十三名　大正一二年
第六位　十二名　大正　八年
〃　十二名　大正一五年

まんびつ執筆者は年次の面子にかけて棄権なきよう同期の方々の支援をお願いします。

大谷敏治元教授（大10卒前東京外大教授、現学習院大講師）を迎え

会津支部会を開く

（七月二十六日）



（左）大谷先生（右）筆者

連日三十度を越す暑さがもう十日以上も続く七月二十六日、真昼の会津若松駅頭に大谷敏治先生は、第一磐梯号にてお着きになった。北欧風の麦藁帽子を帽り、身一つとも言うべき軽装であられた。去年の春三月、熱海伊豆山での約束を果たす為に来られたのである。聞けば会津若松は初めてとか。途中の磐梯山は折り悪しく雲の中にて見えなかったと残念がっておられた。小生宅にて小憩し、去年以来の久濶を述す。先生は一寸も老けて居られず、かえって教え子の小生の頭髪の方があやしくなり、気恥しい位である。

当会津は初めてとの事ではあるが奥様の曽祖母が会津の殿様松平容保公の内藤家老に奥仕えをしておられたとかで、会津の住人が顔負けする程会津の歴史に通じておられたのは一驚でした。目下明治戊辰百年祭にて会津若松は全市をあげて、記念出版、行事、歴史博覧会等を催しており、NHKテレビ「三姉妹」にもよく当時の会津の事情が描かれており先生の「祖母物語」とも言うべき歴史の裏面史なりを知る事が出来たらと思い、是非それを書いて頂きたいと御願いをする。談、漆器に及ぶにつれ、漆器の製作工程を見学する。漆が水分（湿気）に因り乾燥するときかされて驚いておられたが、製作工程の造詣の深いのには、何処で仕入れされたのか、商売人が顔負けする。軽佻浮薄な若者の多いこの世の中に、漆器製作にひたむきに一生の情熱をかける若人の群れの姿を見て驚かれたらしい。そしてこの伝統の芸を企業として是非とも残す一方、新材料による新塗装方法に脱皮する面を併立させる可きである、と商業学者としての意見を述べられる。

次に車を駆って白虎隊の切腹で有名な飯盛山に登る。先生は元気、幾百ともしれぬ石段を登られる。武士道の精華とも言うべき自刃の地に立ち、しばし声もでなかった。終日香煙の絶ゆることなき少年武士の墓前に額づく。古代ローマの円柱で造られた「文明の母たるローマは、ローマ最高の勲章と敬意を表す」と書かれた記念塔。「一ドイツ人より」とのアドルフ・ヒトラーより贈られた記念碑。一橋大法学部長大平善梧教授（会津中、小樽高商出身）の厳父の頌徳碑を見学の後、会津藩主松平氏の庭園を見学する。その中にある小生の建てた与謝野晶子の歌碑の前にて明星派歌人の主峰晶子女史と会津の関係を話し合う。

戊辰戦争の際の「御本陣」（今もそのままで残っている）にては、当時の弾丸の跡、刀傷の跡、遺物、書類に見入る。一昨年復元した白亜五層の鶴ケ城に入りては、その規模の大きさに驚かれ、昔を今にとどむ老杉、石垣、内濠等を見学し、本丸跡にある土井晩翠の「荒城の月」記念碑前にて先生と記念写真を撮った後、同窓生の歓迎会の時間も迫ったので東山温泉グランドホテル（同窓生吉川景亮氏経営）に急ぐ。遅刻を詫び、一風呂浴びて会津支部会の歓迎会に臨む。欠席四名の為、総勢六人なり。森武支部長（大4・前市助役）の先生歓迎の言葉、猪俣良治氏（昭15・喜多方市収入役）の歓迎の辞に答えて、先生立ち、今回の来若の目的、歓迎の御礼、母校の近況、マッキンノン教授来日、スケヂュール同窓諸先輩の消息及び会津と大谷先生の祖母の事等について一時間に亘る説明あって後、懇親会に移る。

会津の美妓もそっちのけにして、学生時代を過ごした夫々の小樽の想い出話に時の経つのを忘れる。森武氏の同級生故手塚寿郎教授談。殊に感銘を深くしたのは、同級生が表題も読めぬ経済学の原書を次々に読破して居られたとのことである。二寮生の手塚教授の日常生活、教授の厳父が遙々小樽に訪ねてきたのに小樽の街を知らなくて案内出来なかったという教授らしい逸話、「緑丘」の蟇目君が聞いたら飛びつきそうな話ばかりであった。大谷先生と外人教師、ジョーンス、マチルド、ダニエルス、マッキンノン、ファミンチャー、スミルニッキー等々の教授の交友とその近況、小生のコレポン失敗談、新婚ともしらず毎晩先生宅に押しかけた失敗談、図書館と先生宅との図書の運送屋を勤めた話、「商業通信規範」（所謂コレポン）の改定版「海外貿易活法」「日本海外貿易論」の原稿は総て大谷先生、並びに木曽先生であること等、当時のゼミナールの一員であった小生の話等いつ果てるともつかず、美妓の白虎隊の剣舞、女白虎隊の舞も眼に入らぬ様子。夜の更けるのも忘れた小樽談義でした。当夜出席の支部会員は、前記の森武氏、猪俣良治氏の外、吉川景亮氏（昭一八・東山グランドホテル社長）、宇津木弘氏（昭六・喜商高教師）、小野寺佐（昭一一・小野寺漆器店社長、欠席は明田伊造氏（大一四・団体役員）、鈴木正幹（昭一五・鈴木五郎商店常務）、飯坂久男（昭一二・若商高教師）、佐治寛（昭二〇・東北電力）。

当夜の小野寺の即席短歌「小樽を想ふ」と題し

。アカシヤの並木に夕の雨の降る公園坂に知りしかなしみ

。アカシヤの並木花散る宵ばかり古き小樽のかなしきはなし

。北国の緑の学舎の内庭にやさしく咲き出し蒲公英の見ゆ

。さいはての緑の校舎の庭にまろびポプラ仰ぎしはたちの心

。雪の降る港の見ゆる学び舎に「コレポン」講ぜし君若かりし

。夢の中に小樽の海見ゆ船も見ゆわがかなしみの若かりし日の

。夢に見る小樽の海よ外国船よ公園通りの君がお下髪よ

。再びを春の「地獄坂」登らなんわが若き日の翳もとむべくと

歌ったのに対し、翌朝先生より次の短歌が送られて来た。先生は翌朝、第一スカイライン号にて猪苗代湖、裏磐梯高原五色沼を経由、吾妻磐梯スカイライン浄土平に登られ、会員の待つ福島に向かわれた。

。会津なる山ふところにうまいして友の情けをとおとしと思ふ

。この朝げここだ啼く鳥にきはだちて一声ひびくうぐいすの声

。うつし世のなりはひはげむひとときをミューズの神にほほえむ君はも

。あなとうとミューズの神のゐたもうと現し世の業ただに励まん

。をのこ吾遠い祖先の業つぎつ会津たくみの誉かかげん

。名子屋町古きなりはひ年ふれどラッカーは生くレヂン素材に

一九六七・八・十（小野寺記）

原岡先生来札を機に札幌同窓有志の集い

（後列）川村寛治　四宮一義　宗山宗行　尾崎忠光　神　寛蔵　飯島幸雄

（中列）加藤秋治　品田吉治　跡部信一　小畑忠一　鎌倉貞男　山元武夫　岡田芳雄　金井英明

（前列）弓削　実　大西友信　（先生と御家族）　野村信一

昭和四十二年八月十日、小樽から原岡先生が来札されるというので弓削実氏（昭一六）のお骨折りで別項の有志十七名が札幌駅前伊藤ビルに参集。先生、お孫さん方を囲み、昼食をとり乍ら歓談の一ときを過した。席上弓削氏の司会で開会。大西友信氏（昭四）の歓迎のあいさつ、出席各氏の自己紹介のあと、昔乍らの温顔でとても八十四才とはみえない若々しい先生から軽いユーモアを交じえて健康法、処世法、その他滋味溢れるお話をうかがい楽しい一ときを過した。

なお先生には当日札幌植物園にお出でになるご予定の所、生憎の雨天のため、そのままご帰樽された。

（飯島記）

あらゆる建築設備の　設計・施工

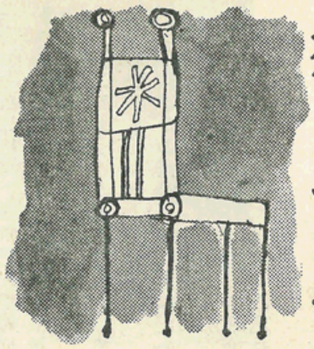
暖冷房設備・空調設備
給排水設備・衛生設備
配管工事全般

日邦工業株式会社

取締役社長　井薬政市
相談役　宮地邦介（大11）

本社　大阪市西区南堀江1丁目3番地　電話大阪（531）代表 8461～5番
出張所　堺市浜寺石津町東2丁702番地　電話堺（41）0776番

東京 緑丘十日会



第一四六回 十日会開く（東京）

叙勲受賞のお祝のつどい

久しぶりの東京十日会が、七月九日午後六時から、東京ステーションホテルで開かれた。

今回は、さきに勲三等瑞宝章をうけられた南亮三郎博士（大正九年）勲四等旭日章の松本義一氏（大正八年）、勲四等瑞宝章の種田堅次郎氏に、芸術院賞をうけて天皇陛下と会食して文学を語った伊藤整氏（大正一四年）のお祝いを共にし、かつ、今春東京に居を移された元学長大野純一氏（大正八年）、および今春母校を停年退職すると同時に、専修大学教授となった久木久一氏（大正一三年）を、お客としての、おめでたい会合となった。集るもの、理事長佐々木周一氏ほか五十九名。大谷幹事の司会、竹村吉右衛門幹事の祝辞で一同乾盃、あと、大野・久木両氏の謝辞につづき、滅多にはひとまえで話をされぬ伊藤整氏が、十分くらいといいながら約三十分、自分の詩人・翻訳家・作家・評論家・文学教授という生活の仕事のきっかけは、緑丘学園の生活にあったこと、D・Hロレンスを訳したのち、一本を故浜林先生に献本したが、まあ誤訳はないとパスしたらしいこと、など、秘話を披露したあと、「チャタレー夫人の恋人」のほんやくは、出版の時期がちよっと早すぎた。あの後、あの本はうるさい英本国その他の国でも、公認となったのだから、そのあとで上梓したら日本の裁判所も困ったろうという話、グローバル・エデションにでた最近の性生活の真実描写の本の紹介など、有益な話があった。そのあと、もと日生劇場の経営担当佐竹繁寿氏（昭和三年）、弁護士の熊谷林作氏（昭和五年）、野口正二郎氏（昭和十年）の感話、つづいて、国際法の大平善梧博士の席上の一首「歓びは若くあらなん緑丘の、はらからあげて、祝ほがざらめやも」の朗詠があった。そのあと、佐々木理事長から、緑丘人のいっそうの努力、とくに学園在学の若い人びとの奮起をのぞむ旨話しがあって八時半閉会、次回幹事の一人、君島興一氏（大正一一年）より、次回も今回以上の盛会を要望して閉会した。ちなみに、南博士は病後静養中、種田・松本両氏が都合で欠席されたのは残念であった。

伊藤整氏（長谷川政夫氏撮影）

種田堅次郎氏急逝

上記お祝いパーティの主客のひとり、種田堅次郎氏が、八月二十一日急性肺炎で急逝された。母校野球部創成期の名投手、全北大戦に若き日の木原均博士と腕を競った野球人、東京海上火災の常務取締役から損害保険算定会の理事長と、斯界の第一人者、葬儀は芝青松寺で盛大に行われた。

マ先生千歳空港に到着

マッキンノン先生夫妻をのせた日航機727は、八月二十八日午後十一時三〇分小雨ふる千歳空港に着いた。タラップを降りる先生の足どりは、心もち震えていた。寄り添う報道人を制して空港ビルへ。向う側の柵の外から、マッキンノン先生万才の呼び声、振り向くまもなく、いらっしゃい、お帰りなさい。の声、声、声。実方学長、森松、安宅、植田、上光ほか札幌支部の代表、小樽の代表新谷篤太郎幹事長、毛利あや子嬢そして旭川から宮北治平氏と、昔マッキンノン邸のお手伝い土田さん。

先生夫妻の眼には泪があって言葉にならない。一路札幌パーク・ホテルへ。昼食、少憩。ここにはマダム・オーグロ・マチルドも参加してたのしい郷土最初の食事、そして学長の車で一路母校小樽へ。四時潮見台和光荘着、主人公、野口喜一郎氏自からの出迎え、同窓誠一郎氏夫人、お嬢さん、支部長杉江猛氏らの出迎えあって、先生夫妻は、念願の郷土への再帰をはたした。その夜の夢やいかに。

昭和十二年卒同期生に「緑丘」購読のお願い

小樽に於ける三十周年全国大会の席上、同窓会誌「緑丘」の五六号を同誌の編集者、大阪の蟇目英三先輩（昭十一）からのご厚志により、小樽まで運ばれて持参の上お配りしましたが、これ迄に未だこの「緑丘」をご購読しておられない方は、今一度この本号をお送りいたします。どうか此機会に引続き購読のお申込みをして下さい。

○購読料の払込は差入れの振替用紙をご使用下さい。

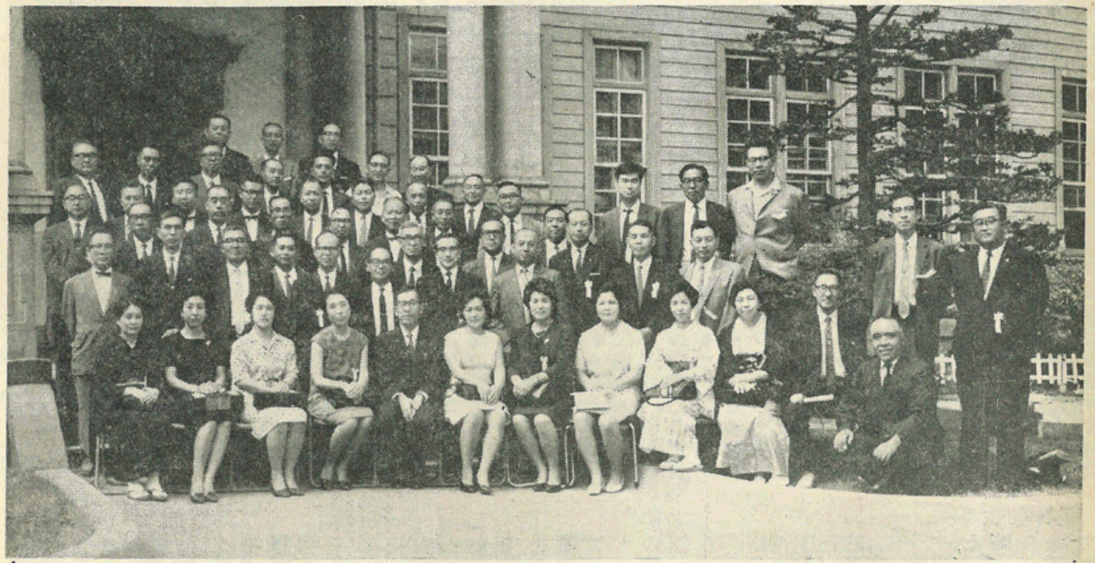
○本年度初号の手塚寿郎先生特集号から送付されます。

昭十二卒同期の動静察知や誌上連絡に大いに活用することが出来ると思います。同期の人で「緑丘」を知らない人にも、すすめて上げて下さい。

（昭一二　山村記）

緑丘卒業三十周年記念

昭和十二年卒　全国大会



4列目より左	木内	浅野
	田崎	豊島
	宮内	須永
	五十嵐	本間英
	長谷川	林夫人
	岡田	岡田夫人
	石川	宮内夫人
	浜中	石川夫人
5列目より左	中沢	須永夫人
	泉元	実方学長
	曽根	長谷川夫人
	中村	曽根夫人
	久保	山村夫人
	牧田	竹島夫人
	千野	岩佐
最後列より左	尾崎	福田
	本間	田中
	岡田	寺田
	森川	山本
	八尾	大味
	矢部	竹島
	新海	横山
	金林	岡本
	梅原	山村
	白潟	浜井
	川村	善養寺
	佃	加藤
3列目より左		

昨年以来東京に起った同期三十周年大会開催の提案は、その後全国各地区へ激となって伝わり、漸く決行の機運熟するや、主力幹事諸氏の長期に亘る撓ゆまざるご努力が実を結び、開催地元幹事諸兄へ開催準備の申継ぎとなって、茲に華々しく各年度緑丘同期会にも稀にみる六十二名の多数参加を数える賑々しい開会の運びとなったのである。

㈠　大会の概要

開催地　小樽市祝津　天望閣

日　時　昭和四十二年八月二十六日（土）二十七日（日）

ゴルフ同好者の懇親コンペは二十五日、輪厚コース

招待賓客　実方学長、室谷先生、木曽先生、原岡先生、松尾先生

参加者（合計六十二名　○印夫妻同伴）

京浜関東地区　千野秀夫（堀内）福田政治、○長谷川順治（今津）、○石川孝一、○木内武之助、牧田恒雄、中沢正五、大村良雄、岡本元次、○曽根重四郎、○須永誠一、○竹島旬、梅原音二、○岡田春夫、横山為祐、善養寺和一、田中正三、川村勉　以上二十五名

京阪神、四国、九州地区　○林武森川正明、豊島保郎（松井）、八尾勝郎、○山村太兵衛、○宮内美雄、河内典次（小谷）、白潟良造　以上十一名

中部、北陸地区　浜井清一、森本秀勇、寺田八郎兵衛、矢部三郎、浅野輝彦　以上五名

北海道地区　浜中学、五十嵐良一本間淳一、本間英作、○岩本正

義、岩佐廣（安細）、泉元信一（桑原）、加藤勇（藤山）、金三郎、倉本福蔵、中村統一、岡田一次、尾崎初郎、新海厳（中山）、田崎勝次郎、米田実、大味新三、佃弘、久保博、山本博康　以上二十一名

(二)　開会に至るまで

既に秋立ちそめし頃というのに、未だ本州では酷しい残暑を報じている折柄、ここ北海道は陽光を一歩木影に避けると、快い涼風が肌をくすぐる初秋の爽かさを感ずる八月二十六日、我々同窓が待ちに待った三十年目の相見ゆる記念すべき当日である。二つの海を越えて遙か九州天草、四国高知、松山の遠く、或は関西、北陸、名古屋、関東の各地、近くは道内各方面からの朋友達は、早きは既に十八日から海峡を渡った者あり、二十四、五日ともなれば札樽の近辺は早や同窓会づいた初老の青年共の対面が、思い掛けなくあちこちで行われていると聞く。

開会午前十一時前には、地元担当幹事諸氏が万端整えて居並ぶ母校学生会館玄関受付が遠来の友の到着を今や遅しと迎えてくれている。嘗ての悲喜交々の想いを秘めたあの地獄坂を、今日は満面歓びの笑顔をいっぱいにたたえて次々と登場してくる顔と顔、目下建設中の見慣れない工事現場に驚きつつも、辛うじて三十星霜昔ながらの面影を残す学園の一木一草に、異常なまでの懐旧の念を言葉以上の衝動を以て、その一挙手一投足に露わに表現しつつ語り出すいくつかの友の姿が胸つまる思いで眺められる。

手渡された名札のリボンを、もどかしげに胸に着け、参加者名簿に眼を走らす。お互いに顔の探り合い―名札の確認―声を挙げて堅い握手、一連の動作が判を押したように演ぜられる。親愛の心が通い合った嘗ての三年間の厚い友情のきづなは、永い期間の経過と、遠い距離の隔絶を以て、しかも断ち切ることができず、今こそ鮮かに、生々しく甦ったのである。恐らくこの瞬間の真実には如何なる名優の迫真の演技と雖も近づくことはできまい。月並みな言葉かも知れないが、げに男の友情の深さをまざまざと感銘する光景である。

飛行機による往復とアルコール厳禁の条件を約して医師の許可を得て遙々参加した松山の白潟良造君、当日羽田を発って千歳から車で直行ぎりぎりに馳せ参じた田中正三君或はもろもろの身辺の制約を振り切って俄かに飛び込み出席の横山為祐、善養寺和一、浅野輝彦の三君、また同伴参加の諸君の中には銀婚とのダブル記念の渡道組が数多く見受けられた。かくて定刻すれすれに発起人の一員岡田春夫君夫妻の受付を最終に、いよいよスケジュールに従って記念行事の最初のテーブルに着席する者六十名を数え正に圧観である。

(三)　母校見学、物故者追悼会

母校学生会館食堂に設けられた会食場に、幹事新海厳君の司会を以て参集の一同に温い歓迎の言葉と之からの行事予定が述べられ、全員の健康を祝してビールの栓が抜かれた。打ち解けた昼食のテーブルに北海道のコクのある冷い牛乳が配られるなど、こまやかな配慮が偲ばれる。

参列の実方学長から行き届いた歓迎の辞と学園の現況、将来の構想等にわたって、岡本教授（学生部長）から商大の教育現状と就職の概要について、神妙に夫々ご説明を承った。

食事の後、本館正面玄関前にて記念写真を撮る。この時のカメラをのぞく年配の男こそ、彼の陣内の親爺さんであった。懐しさの掛け声があちこちから振りかけられる。次いでそれぞれのグループで学内校舎を巡る。過ぎにし日、ある時を勉学にいそしみし若き学徒の己が姿が、各自思い思いの追想となって眼の裏に去来したことであろう。この古びた歴史ある木造の建物も間もなく蒸発してしまうと聞く。洵に感慨無量、たとい抗し切れない時の流れに目に映る古い校舎は失われても、近代化した新校舎の商大の進路に、いつまでも消えさしてならないものは、今日の我々同期を含む緑丘に伝承される輝しい栄光の灯りだと叫ばずにはいられなかった。

午後一時、予定の如く天望閣差し廻しのバス二台に分乗して正法寺に於ける同期生物故者追悼会場へ向った。香煙のただよう仏前に座するや正面に掲げられた今は亡き若き日の姿のまま幽明境を異にしていった四十九名の友の名簿に粛然襟を正し、一瞬寂として声を無くしたのであった。新海君の読みあげる故人の名が時としてとだえ、暗然たる思いをこらえたのは、必ずしも法主の唱える読経の音のためばかりではなかったであろう。

亡き友の霊よ、今私達は生き延びる幸を得て、茲に宿願の三十年の再会を果しました。「おう、お前もやつぱり来たか、元気でよかったのう」と肩を抑え、手を握りたかった。あゝ、冷酷非情悲しみの極みなり、み霊よ、私共の心からの慰めの合掌を安らけく受け給え。

物故者名（昭四二、六、一二現在）

渥美政次、平野勉、本間竜夫、船木庄蔵、稲村正臣、井上四郎、市川巌、磯部浩、片平道雄、伽賀三郎、金子東、木津谷重行、木村博明、小林泰二、松浦正雄、松沼利一、道場直行、三浦寅一郎、宮本美彦、中山正一、名越正一、永井憲禄、皆川荘一、橋本正雄、奈良岡貞美、大槻喜多夫、坂田富男、佐藤武、白倉康雄、新保芳夫、昔農義夫、田所悟、田村秀造、田中一弘、田中正輝、多賀谷礼次郎、竹内巧、高橋義武、渡辺滝蔵、山崎正文、山口重義、安井清治、横川正一、吉川武次、永原寛、金沢平佐久、追分努、上家富誠、坂元政雄、亀田栄蔵　以上五〇名。

正法寺より緑丘展望台、小樽公園、公園通、花園第一大通、入舟、港、色内、稲穂町を経て手宮、祝津へと一路進行、午後三時半水族館前に到着、暫し童心に帰っての館内消遙にひとときを過した。この間、米田実君、木内君夫人、岩本君夫人を合流し、一同が延々リフトに身を托して丘上の天望閣へ入ったのは午後四時半頃、割当された部屋割に従ってそれぞれ遙か眼下に金波銀波のくだける景観に包まれた岬の宿に落着きを得たのである。

幹事の挨拶に曰く、期日差し迫って人員急激に増加したため予約の部屋数間に合わず、同伴の諸兄には不粋ながら今夜一晩は夫婦別れをして頂きたい。万場の拍手を以て異議なし、そこは心の通ずる同期の友の女房連、女は女づれで十一人の若いお婆ちゃん方、一堂に会して和気藹々、後刻ご主人方には又誰はばからず夜の市内慢歩にとさまよい出でたるご仁もありしとか、反って粋な計らいともなった。

(四)　天望閣祝宴

午後六時、大広間に実方学長、室谷先生、原岡先生、木曽先生、松尾先生を迎えて、宴席錦上花を添えての盛会となった。学長は先輩の一人としての気持から東北大、大阪商大のそれよりも、緑丘同窓会に非常な親密感を覚えるとの挨拶あり、次いで岡田代議士の緊急動議に(1)今回の母校に集った機会に何等かの爪跡を残す意味から全員拠金により記念品を置いてゆきたいが如何。(2)物故した同期生の遺族の近況を調べ、要すれば応分の配慮を構じては如何。との提案説明あり、二件共万雷の拍手で賛成承認、(1)に対しては朝食後一人五〇〇円宛の拠出を以て三万円の額を新校舎に掲げることとなり、(2)に対しては現在の幹事に留任して頂き全国的な連絡の下に名簿の調整と次回開催の準備をも実施することと決定、勢の余る所、次の四十周年は十年が待ち切れない。是非共三十五周年を実施せよとの決議が成立した。引続き松尾先生から緑丘戦歿学生の慰霊碑建立のご提案が如何にも先生らしい真摯な口調を以て述べられ、全員の激しい感動の拍手となって答えた。この事はやがて当然に我々世代の緑丘各同期生が一丸となって、広く大きく声を挙げなくてはならない問題である。

やがて原岡先生の音頭にて一同乾盃、忽ちにして宴席のあらゆる指数が堰を切ったようにグワンと上昇してしまった。そのかみ彼の予科生をもたぢろがせた蓬々の長髪も、ある者はいつしか霜を頂き、ある者は又既に光を放ちつゝあり、唯気慨は往年の若き日の高商生に立ち返って、相続く歓声、爆笑、手を拍ち足を踏み鳴らして時の経つを忘れてしまった。室賢先生から「学舎を出でて三十歳、相会うは身も魂も健かの人」と贈らるゝや、すかさず福田政治君立って朗々と之を吟ずる、浜井団長が予て用意の応援団旗をふりかざして壇上に立上れば、片や岩佐広君、昔とった手振りの拍手の音頭、之だけ集まると役者に苦労はいたしません。宴も正に酣、時ならぬ校歌、進軍歌の大合唱となり、立ち上った列席の夫人方も歌詞を取って唱和される。さてお開きも近づくや、幹事より夜の小樽回想Aコース Bコースの申込を受けつけ、更けゆく祝津の夜のとばりをついて車を飛ばす熱烈な同志諸君、北消道へ帰った甲斐ありき、さすがである。

明くれば連日続く快晴のお天気、同期の精進高く評価さるべきであろう、八時四十分朝食の膳に着くや、今回の会合に早くから献身的なお世話を買って頂いた牧田恒雄君の司会により自己紹介に移る、さすがこの三十年、伊達や酔狂で飯を喰った訳でない、おのおのその道のひと角の人達ばかり、実に巧みな話術題目を以てバトンを回してゆく、或は謹聴し、或は哄笑の中に忽ち時間の経過が惜しまれてならない、皆がバスの出発時間をぎりぎりの線迄延ばさしても尚且つ腰を上げ難かったのも、果しない名残り別れとうない愛惜の情を我と我が心に説き聞かせていたのでした、気をもんで下さった幹事の方には申訳なかったことです。お互に尽きぬ想いを胸に秘めつつ、又相見る次の再会の日を堅く約して解散のバスへ車中の人となっていった。手にする心づくしのお土産品は雅趣に富む小樽焼（NHKの旅路茶わんで知られる）の茶椀、その内には珍味つぶ練りの雲丹がぎっしりと詰っていた。

本会の生みのお世話から開催運営のお骨折りを頂いた夫々の幹事諸兄に厚くお礼申上げます。更に次の機会にはより賑かに、より感激深い会合が持てますように祈って止みません。

（山村記）

昭12卒三十周年記念

懇親ゴルフ

時　昭四二・八・二五（金）快晴

所　札幌カントリーC　輪厚コース

同期生全国大会の前日を期して、同コースメンバーの尾崎、金両君のお世話にて涼風頬を撫でて、到底本土では味えぬ絶好のゴルフ気候の下に午前九時スタート、八名の参加者により開始された。

戦果は後記の如く波瀾に富んで、日頃中央に名を馳せた血統の正しい駿馬ほど後半落ちて、地方の知られざる鈍馬が意外によく伸びたという公式講評であった。金君が途中要務のため退場、参加予定者が日取りの為出席出来なくなったことが惜しい、五十嵐良一君にはゴルフの外、ホテル、旅行、土産品等にて同期生諸君が多大のお世話になって感謝します。

成　績

順位	氏　名	地区	IN	OUT	OUT	GROSS	HDCP	NET
1	山村太兵衛	京都	56	52	48	156	42	114
2	尾崎　初郎	札幌	49	54	49	152	37.5	114.5
3	須永　誠一	高崎	46	50	54	150	27	123
4	千野　秀夫	東京	45	48	49	142	18	124
5	石川　孝一	東京	47	55	45	147	22.5	124.5
6	宮内　美雄	高知	54	61	59	174	45	129
7	牧田　恒雄	東京	57	56	52	165	33	132
8	金　三郎	札幌	—	—	—			

札幌・昭和十三年会
——室谷先生も参加——
七月十五日・ゴードで

今年初の同期会は七月十五日午後五時半から、いつものゴードーの酒場にて開く。

会は先ず、幹事多賀君の挨拶で始まり、乾杯。

鎌谷君から「来年の卒業三十周年全国大会は、会員の都合上、集まり易い東京を中心としてやることにきまった」という説明があり

当夜の出席者は室谷先生を含めてわずか十三名であったが、この度は珍しくいつも忙しくて欠席を続けていた花野君と川越君が出席、卒業以来初めて会ったという人もいた。

今回も現札幌短大学長の室谷先生に来ていただいたが、先生には目下札幌郊外の下野幌に広い立派な庭園付きの新居を建築中で、八月中旬ごろ移転の予定である。当会ではこの秋にでも、先生のこのお庭で新居を拝見しながら、再び同期会をやろうではないか、と話し合った。

当夜は歌も出ることなく、専ら談論風発、大変愉快な話はいつ果てるともなかったが九時近く散会した。

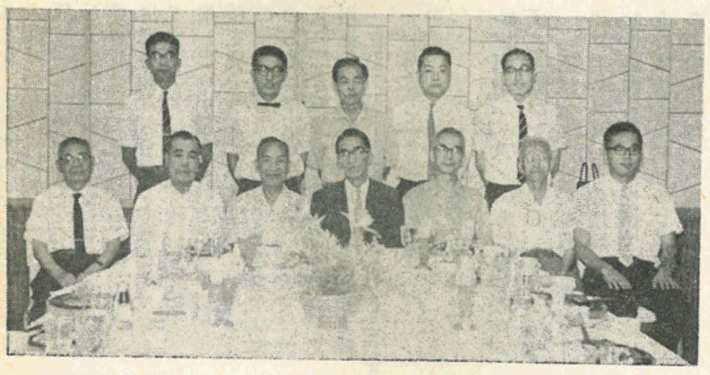
なお、出席者より先頃死去した故守野君の香典（立替分）に対し若干宛拠出された。（欠席者の中、佐藤勇君、吉田君、足立君よりも同額の香典が送られて来た）　戸谷記

写真（右より）
前列　花野、多賀、今井（健）、室谷先生、野田、大津、進藤
後列　川越、馬林、永井、鎌谷、佐藤三、戸谷以上

（訂正）　前号故宇野君の写真説明「後列左端」は「五人の中央」の誤りにつき謹んで訂正いたします。

緑丘会　富山県支部総会

八月二十六日（土曜）午後四時から富山市大和デパート七階の特別食堂で開いた。県内在住会員二十九名の内下記十二名が出席。藤瀬支部長の挨拶に次いで全員からそれぞれ寸感吐露。九月十九日の金沢における マッキンノン先生歓迎会には精々多数参加することを申し合せたあと、ニューフェイス田中秀雄氏らを中心にして話題つきず、談笑裡に夕餐を共にして六時散会。尚新年度世話役として支部長飯野直義氏、幹事神沢重治を互選した。



写真右ヨリ
（後列）新庄、石塚、田中、八島健、長谷川
（前列）柴田、八島勝、神沢、藤瀬、飯野、河合、西田

（出席者氏名）

卒業年次	氏名	勤務先
大正九	藤瀬幸造	北陸サッシュテサカ研磨
一〇	飯野直義	〃
一一	神沢重治	〃
一三	河合邦吉	富山通運
一四	八島勝己	八島合名
一五	西田英夫	不二越
昭和一六	田中秀雄	保護観察所
二三	石塚磐夫	北陸銀行
三〇	八島健三	〃
〃	柴田勇吉	〃
三二	新庄隆	〃
四一	長谷川靖雄	〃

以上十二名

お詫び

五六号四七頁『札幌支部総会』記事中上段十三行目加藤信吉氏とあるは昭和九年卒加藤政治氏の誤りにつき謹んでお詫び申し上げます。

東京・昭和十三年会開催

最上列左より　柳川，田村，沓沢，
皆川，太田，新井，
中上列左より　松ケ野，丸山，青塚
小田，篠原，高野，渡辺
中下列左より　秋田谷，窪田，河井
信田，関根，富永，三森
最前列左より　福田，羽鳥，鈴木暉
江川，田中，鈴木啓，室谷，金垣

今年の盛夏は、特に暑さきびしく凌ぎ難い日が続いたが同期の諸兄各々の持場に於て御活躍されて居るのは御同慶の至りであり、この際息抜きの為一席を設けようとの意見が出て去る七月二十四日新宿東京会館に於て十三年会を開催した。

当夜は豊橋市より鈴木啓介君、北海道より最近東京に転勤された三井鉱山の沓沢昇君、大阪より転勤の新菱建設の田村耕一君が出席し定刻前在京同期生が続々と集まり総員二十八名の多数に及んだ。

幹事より会計報告後田中康夫君の安宅産業紐育支店長として御栄転（八月初め渡米）の披露及び歓送の辞及び同君の感謝の辞があり引続き来年度三拾周年行事につき相談あり先づ来年度幹事の選任に移り高野、小田、飯川の三君（後日東芝の木村君にも幹事役引受願った）に決定した。開催日其の他については大阪、北海道の幹事と打合せ決定願う事となった。

宴中ば酔の廻らぬ中に一同記念撮影して後酒杯のピッチを上げ各自メートルが上がるにつれて美青年の学生時代の気分に帰り時間の経つのも忘れて談笑にふけった。

九時半一応散会となったが心残りの諸兄夫々三々五々打ち連れて新宿の夜の街に散って行き明日の英気を養われた事と思う。　（幹事記）

坂東虎市氏（筆名利根柳太郎）逝く

緑丘が生んだ異才坂東虎市氏（大一〇）は昭和四十二年八月十五日東京品川の自宅で心臓衰弱脳軟化症にて死去された。喪主長男の勇氏よりの来信に依れば二年前より心臓を悪くし自宅にて斗病。今春頃より脳軟化症併発せしも医者が驚く程永持ちしたとの事である。

氏は人も知る緑丘が生んだ奇才、東京京橋にて経理士を開業幾多の後輩育成に専念され、同門より出でる経理士会計士と数限りなく柔道七段として嘉納治五郎氏、苫米地英俊氏と親交、母校「真心会」（柔道部）を育成し、文学、詩歌に通じ（ペンネーム利根柳太郎）博文館講談社等の幹部と親交、歌集「小荻集」随筆「野武士行脚」の著者。門弟に小島典春（公認会計士）、小野寺佐（筆名茅野春秋）、本間誠一（昭一一）近江竜三（昭一一・経理士）、兼子清一郎（昭一一・羽前木工KK社長）等々幾多の偉材を輩出せしめている。故伴房次郎先生と親交を結び、往復せる書翰は優に一冊の本を越す可く、言語、挙動、異彩を放つも心底窟心に近く終生酒を愛し文学を愛し母校を愛して一生を閉じたるも晩年枯淡の境に達し仏門に帰依し文学の徒に在り勝な孤独な最後を遂げたが氏の御世話を受けた同窓生後輩門下生よりその急逝を歎かれている。

遺族は長男勇氏（大阪兼松江商木材部勤務）の外三女あり。皆成人し居り、自宅は東京都品川区西大井三丁目十六番二号、坂東京子、戒名覧光院誠徹武居士、行年六十七才。

題　利根柳太郎
伴　房次郎

明燈錦幄珊々骨
細馬春山剪々眸
珊瑚百尺珠千斛
難換羅敷未嫁身
太白多露語卒語
子美多稚語累語（小荻集より）

故若松清太郎先生とご遺族

若松先生の戒名「真誠院釈清謙教道居士」
ご遺族の宛先は
鳥取市吉方三区四三四
若松芳彦様

お土産に　**浴衣一反ビール飲み放題**

緑丘会大阪支部 関西エルム会　合同懇親パーティー

昭和四十二年八月十八日・大阪北大使館

緑丘会大阪支部と関西エルム会との懇親パーティーは回を重ねること五回に及び、今回はホストが緑丘会で準備万端誠にいたれりつくせりでやはり高商出の方のこの気の付き様には唯々感心しました。

会場は北の大使館九階に席を一室もうけ、緑丘会大阪支部長石田平八氏、関西エルム会並河功氏も見えたところで開会になる。

若山幹事長の司会で先づ緑丘会大阪支部長石田平八氏及関西エルム会長並河功氏の挨拶にはじまり、続いて出席者の紹介に移ったが、先づ北大側から中尾実氏が出席者の紹介をはじめた。商大側は若山永太郎氏が紹介の労をとったのであるが、ここでもまた一本とられた形である。彼は一人一人の氏名職業は勿論、勤務先のPRをのユーモアーを交えて楽しく、しかもほんの僅かの時間で印象付け乍ら進行していく手際のよさには驚いた。

並河エルム会会長挨拶

緑丘会陣地

一通り両陣地の紹介も終りいよいよパーティーに入るのであるが、四人の大阪型京美人ホステスがすでに待機中、しかしビールを大樽からジョッキーに入れてる間にホステスの紹介をしようという事になり、ここでも若山氏が××子さん、〇〇子さんと繰り返して紹介をする。この一寸した配慮でビールの出ない中にもう楽しいふんい気がこの会場にあふれていた。

ビールが出る、料理が出る。歓談、痛飲、ジョッキーが重なっていく頃合よしと見て、演芸に移った。

先づ北大側、そして商大側と交互にノドのよさを披露する。

商大側は堀池、宮地、若山……沢山の選手を用意しているのに北大側は誠にお粗末であった。次回ホストは北大であるが次回までに態勢を整えようとの決意は出席者全員の胸の中に湧いて来た。

寮歌（北大）進軍歌（商大）の交歓を最後に、蟇目副支部長の万才三唱でこの会を閉じたのであるが、お土産まで準備していただき、しかもそのお土産が浴衣一反とはおそれ入りました。

ホスト緑丘会大阪支部に紙上を借りて厚くお礼申上げます。

（北大幹事　西条生）

（出席者）

（関西エルム会）

農　T5	並河　功
工　S4	神田八郎
S4	岡村正家
5	安積樟三
5	中尾　実
9	畠山　実
19	長坂島雄
28	武田直和
経　S25	貫田　博
26	西条正人
38	三橋
	雨宮庸夫

（緑丘会）

T11	宮地邦介
11	杉山昌作
S2	石田平八
3	江上芳雄
5	堀池善弥
9	紀野重仁
	藤井幸男
11	蟇目英三
13	鈴木啓介
	若山永太郎
14	市橋宏一郎
16前	亀山英夫
26	田中克己
28	安彦貞三
30	剣物資郎
34	佐野順一
41	竹内　晃

〝緑丘綴込表紙〟品切れ

「緑丘」綴込表紙は品切れになりましたので御知らせいたします。

大阪緑丘十日会

七月度例会（第八五回）

恒例の十日会の昼食中に宮地邦介（大一一）から『穴』の話が出る。ANAは全日空の略称とは「緑丘」の前号「穴」で紹介したが、インドネシヤでは子供の事をアナというと亀山氏（昭一六）が説明してくれた。宮地氏の話によると、字の語源に詳しい方から『穴』の解説をしてもらい「緑丘」に投稿のつもりでおった由。アナのある所にヒゲがある、口にせよ目にせよ不思議だなあと誰かがいう。それは汗が入らぬためだよ、との宮地氏の答。

汗が出る様な話から話題はビールになった。新らしい「ビール」ファイブスターの話が出たからである。石田支部長からビールの歴史を簡単に語って貰った。日本でビールを作ったのは岩内にポップが咲いていたので開拓使が目をつけて大麦を栽培させ、その処理のためにビール製造に入ったとの事である。開拓使を指導した外人のスケールの大きさはただ驚くばかりである。

ビールには大麦のほかに米も入っている。ビールを飲むと小便に立つのもビールの中のルプリンに催尿作用があること、その他女性ホルモンもある。だから、ビールを飲んでいたら頭の毛が抜けない。この席における連中で毛の薄いのは、最初からビールにして置けばこんな事がないのに、酒を飲むから毛が抜けるのだとは一寸マユツバでないだろうか。

ビールの銘柄をのどで見分ける事についてのむづかしさに及び、サッポロビールが結局一番うまいのは全国の代表者による試飲会（消費者…雑誌）が証明しているとの事。

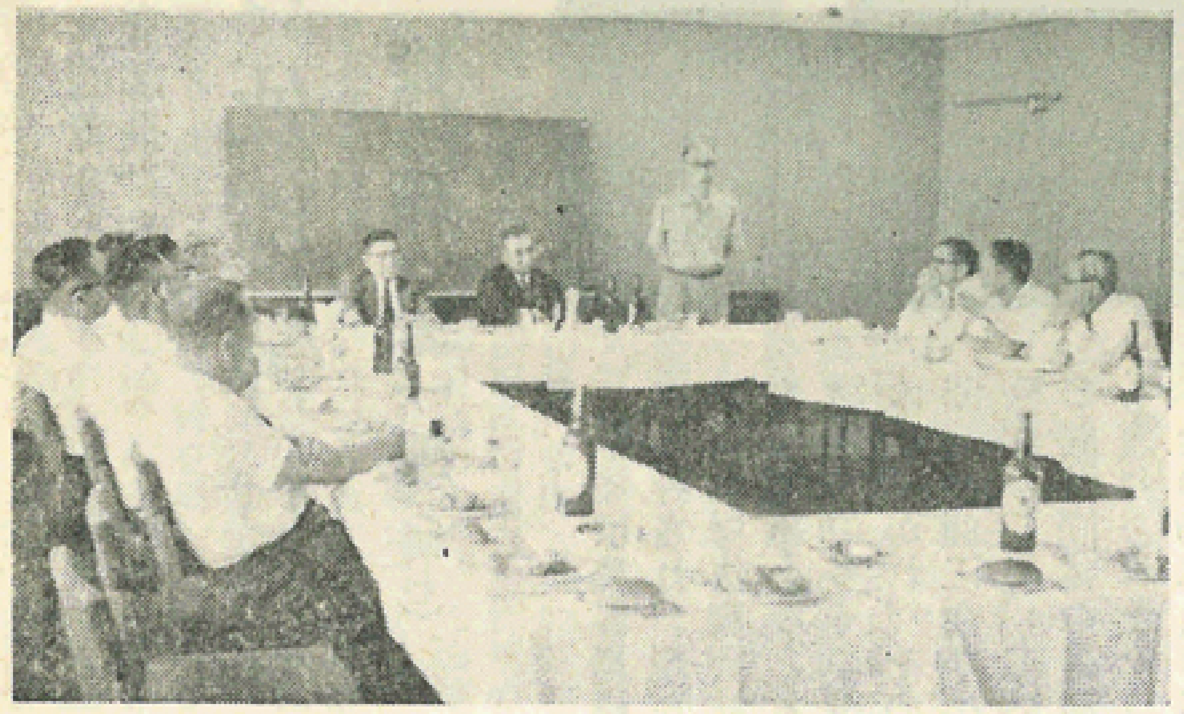
出席者一同は「消費者」をいただき、真夏の十日会を閉じた。

（出席者）

宮地邦介（大一一）天野雅司（大一五）石田平八（昭二）渡辺祥吉（昭二）江上芳雄（昭三）樋山三郎（昭三）紀野重仁（昭九）梅野弥太郎（昭九）進藤彰（昭一一）蟇目英三（昭一一）若山永太郎（昭一三）市橋宏一郎（昭一四）松本義夫（昭一五）亀山英夫（昭一六前）山本健一（昭一六後）角晌（昭三四）

八月度例会（第八六回）

〝夏の夜の犯罪〟



久々に興味をそそるテーマーで案内状を出し、出席者一同も固唾をのんで江上裁判長の顔をのぞいていた。夏の夜の犯罪について話する前に、変った職業に入った江上先生の自己紹介からはじまった。

『人生をして人生たらしめるものは人と人との邂逅だとは、道産子の評論家亀井勝一郎の言葉です。私が皆さんのような実業家を志し、小樽高商に入りながら、方向転換して裁判官になったのも、当時同校に赴任された十蔵寺宗雄教授（後の最高検検事、現在も弁護士として御活躍）が法学通論の開講に際してなされた所謂漫談が起縁となったものです。

『世の中で自分の信念を少しも曲げることなく、良心の命ずるところにのみ従ってやっていける仕事は、大学教授と裁判官だ。ところが、教授の方は学問の自由もだんだん怪しくなってくる雲行だから、真の意味における自由な職業は裁判官だけとなるだろう。その意に反し転勤させられないし、五年位すると外交官（司法領事）として海外生活もやれるしそれに何時やめても弁護士になれるし』云々と、裁判官礼讃をやられ、我輩の講義を熱心に聴けば、高商出の傍系でも、高等学校を経たものに負けない名判事になれるぞ、というものでした。人に頭を抑えられるのが嫌いで社交下手な私は、この話で裁判官を志した次第です。

さて裁判官になってみると、十蔵寺先生のいわれた通りで、職務上の上司というものがなく、若輩の裁判官でも各独立で司法権を行使します。その代り任官三十五年を経た今日でも、自分が指揮命令できる部下は一人もいないことになるのです。

合議事件（殺人、放火等の重罪）は三人の裁判官でやり、うち一人が裁判長となりますが、法定で訴訟指揮をし合議をまとめるだけのもので、両陪席裁判官は部下ではありません。各裁判官の意見は、いずれも同一の比重で取扱われ、多数決で判決が成立するのです。裁判長が保守的な旧い頭の人であっても、両陪席が進歩的な人であったら、進歩的な裁判がなされることになります。裁判官は独立であると共に、孤独でもあるわけです。」と前置きして、いよいよ生まなましい夏の夜の犯罪と現代の青少年の心理状態について語っていただいた。内容については公言をはばかるので省略させていただく。

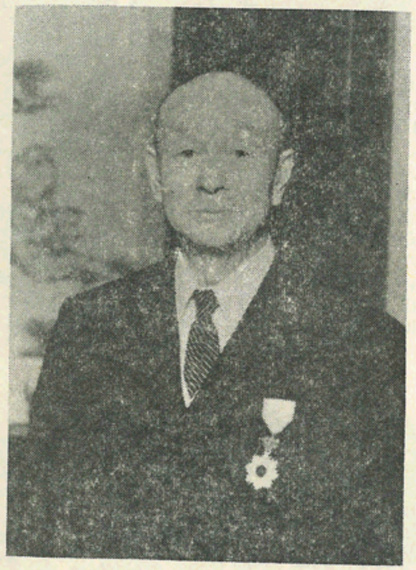
戦後の刑事裁判を担当して痛感するのは人造り（教育）の重大さ、その人造りの教育を軽視の余り、「知」偏重の教育に堕し、自制力を失った青年を育ててきたのでないかと思う。青年に生き甲斐を感じさせる教育理念を確立して実施することこそ急務であろうと結んだ。本日東京から大谷敏治先生もご出席（マッキノン先生来日、関西地区協議打合せのため）された。

（出席者）

来賓大谷敏治元授教
宮地邦介（大一一）喜多村久盛（大一二）大竹政雄（大一二）天野雅司（大一五）大塚武雄（大一五）石田平八（昭二）樋山三郎（昭三）江上芳雄（昭三）堀池善弥（昭五）水垣敏正（昭五）梅野弥太郎（昭九）墓目英三（昭一一）山村太兵衛（昭一二）若山永太郎（昭一三）市橋宏一郎（昭一四）亀山英夫（昭一六前）山本健一（昭一六後）竹内晃（昭四一）

竹中喜一郎（大七・前青森県支部長）先輩の死を悼む

後藤栄一郎（昭七）



前緑丘会青森県支部長竹中喜一郎氏（大正七年卒）が七月二十三日、碇ケ関療養所で七十一才の生涯を閉じられた。

氏は卒業と同時に日綿の浦塩支店に赴任の途中、姻戚にあたる青森市の木材業界の老舗小館木材の社長に立ちよったところ、ぜひにと懇望され同社に勤務することになった。

氏は工場経営の合理化やヒバ材、ブナ材の販路拡張に勝れた手腕を発揮し、木材王国の青森に着実な地盤を築かれた。

戦時中は県地木社副社長として戦時木材統制に果断な業績を示され正六位を授けられた。

氏は控え目で情に厚く、ときには果断仕事をよくまとめる方であった。家庭には青森ガスの専務である長男をはじめ多くの子息に恵まれ、立派な先輩であった。

また緑丘県支部長として後輩の面倒をよくみ、また同窓会には率先、学生時代の歌をばん声をはりあげて唄うなど、その勇ましい声もきくことかなわぬこととなり、淋しい限りである。

謹んで先輩のご冥福をお祈りする。

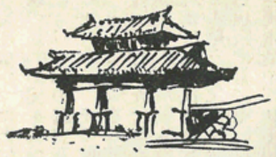
戦後は業界再建に挺身され、現在青森木材防腐会社や枕木組合など木材業界の多くの役職につかれ、その間青森商工会議所会頭はじめ、県内の経済団体の役職も兼ねられた。

その功により生前藍綬褒章、黄綬褒章、勲五等等の叙勲があり、死後

技術革新に貢献する
MARUKA 丸嘉機械株式会社
大阪（本社）・東京・名古屋・岡山・広島・姫路・仙台

某月某日

沖縄視察歌日記



大平善梧（大15）
（一橋大学教授）

七月十五日（土）晴れ

午前八時三〇分発ノースウエスト航空一便で沖縄に向う。沖縄の現地を視察して、返還問題の指針と方法を構想するのが目的で、内閣総理府の命による出張である。東京農業大学の専任講師塩野入五郎君が同行して、旅行中の秘書役を買って貰った。律儀者の同君がまめまめしく立ち働いてくれるので、すべて心強い。早朝の出発であったにもかかわらず、空港まで見送りに妻（芳子）の外に大学院の横川、鷲見の両君が来てくれたが、塩野入夫人は遂に遅れたようである。

七月十五日は暦によれば、ぼん（盂蘭盆）で英霊を弔うにはふさわしいが、本年は例年にない暑さであり、この旱天のさなかに使命とは言え今度の琉球行きはわれながらご苦労なことだと感じられた。

空路二時間余で那覇空港に到着する。真上から照りつける南の太陽は全く熱い。白く光る滑走路が、眼に痛く乱反射する。通関入域の手続は極めて簡単で、着陸第一歩の南島の印象は甚だよろしかった。空港には予め連絡してあったから、南方連絡事務所からの出迎えの外に植松正博士の紹介で弁護士長浜清栄、沖縄大学講師の神山敏雄、田岡良一博士の紹介で琉球大学法文学部長新城利彦、長谷川才治社長の紹介で時事通信の東田幸夫の諸氏が顔を揃え、歓迎していただいた。若干の打ち合せの後に、南連事務所へ赴き、まず高杉幹二所長に挨拶し、昼食を丘の上のハーバー・ビュ・クラブで馳走して貰った。アメリカ側の設備を利用しての饗応は格安で、メニューの定価を見て驚いた。戦時中に上海で海軍武官府の設備を利用して、インフレ下で食事をとっていた往時がふと思いだされた。沖縄が基地の島であるとの現実は、まず軍人クラブの食事から理解されてきた。

土曜日のことであり、午後は島尻の戦跡巡りを行うように日程が組んであった。安里のローヤル・ホテルに荷物を託し、南連提供のガイド付き観光タクシーで、糸満町から南部を一周する。

那覇市から一歩郊外に出た景観は、第一にこれは南島だとの印象であった。南国的景色は沖縄の魅力とされているようで、私は昭和十六年（一九四一年）の八月に、上海から広東に飛んだことがありのときの華南の印象と髣髴するものがあると感じた。とくに、赤々と咲き続いている仏桑花、夾竹桃（ミフクラギ）の花を眺めたときは、たまらない程の特別な親近感に充された。沖縄の国花と定められた梯梧（デイゴ）の方は、春に花咲くので、ただその並木を見ただけだが、榕樹（ガヂマル）が気根を垂れているのを発見して、亜熱帯圏に来たという実感が湧いてくる。さらに、紫のブーゲンビリアの花が垣の辺に咲いていて、私の興奮はいやますのであった。戦後に盛んに茂りだしたという木麻黄（糸松）も異国情緒をかもしだしてくれる。この沖縄の景観は、全く予期していないものだっただけに、親愛と驚嘆の情を禁じえなかった。

糸満の町で、大きな門中（家族一門）の墳墓（幸地アジソイ墓）や美殿（ミドン）の伝説で名高い白銀堂を瞥見して、摩文仁の戦跡の方へ車を駆って行く。

沖縄の激戦地、より適切に言って日本軍最後の玉砕場は島尻地域にあり、そして戦後に慰霊鎮魂の碑がそこに林立することとなった。東京都は除いて、殆んど各県が競って記念碑を建てている。北海道の建立した「北霊の碑」（一〇、〇八五柱）には拝礼したが、わが郷里福島県の建立した「福島の塔」（八三七柱）もあったのに、親しく足を運ぶことができなかったのは今に残念だと思っている。

まず最初に参拝したのは、糸満町伊原部落の東百米の所にある「姫百合の塔」である。これが道順であるとともに感激の起点としても適当した案内であったろう。姫百合の悲劇の塔は、全日本に涙のうちに伝っており、県立第一高等女学校生徒ならびに沖縄女子師範学校生徒百四十三名、及び職員十五名を祀る墓標である。両校の生徒は米軍上陸とともに特志看護婦として従軍し、敵のせまるにつれて南下しつづけ、遂にここの洞窟の中の野戦病院内で傷病兵をいたわりつつ、米軍の砲火のためむざんな最後をとげたものだと、案内嬢は涙ぐんだ調子で説明する。鳥取県医師の伊藤博氏の寄附にかかる女神の像、生き残りの仲宗根政善氏の左の弔歌の歌碑も感激の種となった。

岩まくらかたくもあらむ安らかに
ねむれとぞ祈る学びの友は

同じ米須（コメス）地区に、「魂魄之塔」（三五、〇〇〇柱）が建っている。この塔は糸満町米須部落の南方三百米の海岸に建てられた納骨塔である。この地区は今回の戦争で一番の激戦地であり、日本軍も住民も追いつめられて逃げ場がなく、陸海空からの攻撃を受け、敵弾にあたって倒れたものが無数に輩出した。戦後、真和志村民が入植を許されたので、村民協力のもとに、あちこちの道や畑、丘や森に散っていた遺骨を集めて造ったのが、この魂魄の塔である。祭神は三万五千柱という、沖縄で一番多く祀った無名戦士の塔であった。

摩文仁（マブニ）岳は日本軍最後の籠城の砦であり、ここに沢山の碑が建てられていた。「沖縄師範健児之塔」は摩文仁岳の麓の海岸沿いの洞窟前に建ててあり、この洞窟に籠って殉死した野田校長以下十七名の職員と、生徒二百八十九名、計三百六名の英魂を祀ったものである。仲宗根政善氏作の「健児の歌」の碑ができていた。

南の巌のはてまで守り来て
散りし龍の児雲まきのぼる

感動の圧巻は、摩文仁八五高地の頂上に第三十二軍全戦歿者を祭るため建てられていた「黎明の塔」であった。ここで豪胆な第三十二軍司令官牛島満中将と、勇猛な参謀長長勇少将が自決しており、特にこの二将軍の霊を記念する碑だと目された。六月二十二日、いよいよ守備軍最後の切り込み突撃が試みられ、両将軍は敗戦の責任をとり、二十三日の黎明に古式にのっとる切腹を行った。牛島中将は次のような辞世の歌を詠み、従容として死に就いた。

秋を待たで枯れゆく島の青草は
皇国の春によみがへらなむ

矢弾つき天地染めて散るとても
魂かへり魂かへりつつ皇国護らむ

われわれの拝観した新しい黎明の塔は日本政府の援助により南方同胞援護会が一九六二年十一月に再建したもので、吉田茂元首相の筆になる立派な記念碑であった。

感激の摩文仁岳を後に北へと帰途に就いた。左側の丘に米第十軍司令官シモン・バックナー将軍の戦死を弔う記念碑があった。バックナー中将は、新らたに投入した第二海兵師団の戦況を視察しようと、真栄里の小さな丘陵の上に立っていた。すでに戦局は決定的な段階であり、喜屋武（キャン）半島の日本軍の掃蕩は時間の問題であった。この時突如日本軍

の砲弾が飛来して炸裂した。六月十八日十三時十五分、一瞬にして首将は斃れた。バ将軍の戦死を摩文仁の洞窟の中で牛島中将は知ったが、深々と首をたれ、静かに瞑目したと伝えられる。悲劇の戦場での美談だと思う。

バックナー記念碑を過ぎると、南部には米軍の施設は少いのだが、ナイキ、ホークの基地が点在しており、若干は異様な空気を感ずる。米軍基地の現状を実感で求めるのが今度の旅行の目的でもあったので、いくらか身の緊まるのを覚える。この辺から車は那覇の町に近づくのであり、案内嬢は気分をほぐすように、案内日程表に従って、安里屋ユンタなど沖縄歌謡を紹介する。沖縄は花の島、歌の島であり、今や戦跡の島となった。歌書よりも軍書に悲し沖縄という感慨である。

沖縄戦は、日本軍にとっては運命の血戦であった。一九四五年三月二十三日、米軍の慶良間（ケラマ）列島への上陸によって開始された。米軍は、沖縄本島とその周辺諸島に約十八万の兵力を投入し日本軍は約十一万の兵力でこれと対戦した。戦史的に見れば、わが沖縄戦は作戦思想に一貫性がなく、また全局的見地からして止むをえなかったとはいえ、前年末に最精鋭の第九師団を台湾へ抽出してしまったとき、中部の航空基地を放棄してしまうことになり、その敗戦を決定づけていた。そして南部を専守する持久戦の態勢と変って行った。しかも、大本営は沖縄決戦から本土決戦へ作戦方針を移行し、沖縄軍は遂に孤立化させられてしまった。日本第三十二軍は、首里城の北方に展がる丘陵地帯に堅固な地下の陣地を築き、沖縄本島中部に上陸する米軍の主力と交戦した。この地帯で二カ月にわたる戦闘がくりかえされたのち、日本軍は壊滅し、南の喜屋武半島方面へ敗走した。そして六月二十二日の沖縄戦終結までの三カ月間に、実に一般市民十万から十六万（推定）、日本軍十万、米軍一万二千がその生命を失った。

内地から来訪して、戦跡巡りをした大宅壮一氏は、『全く無駄死だ』と酷評したことがあった。これを聴いて沖縄の老婆がショック死をしたとか伝えられている。戦跡巡りをすると一種異様な興奮にかられるが、これを果して現在の本土の生活感情にどう結びつけたらよいのであるのか、とにかく胸一パイに迫る新戦場の醸しだす特異な情感である。この熱ぽい情緒を逆に〝二十万人の無駄死だ〟と称し、現実面へ断ち切って戻すことは簡単であるが、本当ではないと言わねばならない。

外交史的に見れば、三カ月の防守持久戦が戦局をポツダム会議まで持ち耐えさせ、米軍をして本土上陸を躊躇せしめる効果があったことは確かである。菊水以下の特攻隊は米軍の心胆を寒からしめ、日本の抵抗力を過大視せしめ、これが引いてはポツダム宣言の受諾という終戦方式を用意せしめることになったのだと推定することができよう。

ことに、終戦後にいたり沖縄の廃墟にめばえた民族意識が祖国復帰運動を盛りあげることになり、今日の沖縄返還論の軌道を作っているとすれば、沖縄戦の軍民の死闘は決して無駄死ではなかったと言いうるところである。叫喚の戦場とその跡に建てられた慰霊碑群は、全体社会たる本土と、部分社会たる沖縄を結びつける象徴的な絆である。南冥の戦跡は、民族統一主義の源泉となり、今や本土と沖縄とをつなぐ連結点となっている。全県民の戦争体験が、島ぐるみの復帰運動のなかに定着しつづけたのである。

私は、この日の感激を歌いあげて左の如き短歌を物にした。一つとならんの結句を持つ連作の一部をなすものである。

魂魄の鎮もり居ます碧島を
　長く離さじ一つとならむ
仏桑花赤々と咲き全島が
　魂祭るごとし一つとならむ
島ぬちに死をともにせし友愛の
　その血は消えず一つとならむ

ローヤル・ホテルに戻ると、高杉所長から迎えの車が来て、日本料理屋の「春駒」に赴く。公使と膝を割って、沖縄事情を語り合う。高杉氏は、祖国復帰運動と連絡し、また内々にそれを指導してきた面を説明し、その腹案の方針を解明された。ここ数年、とりわけオリンピック東京大会の頃から沖縄における日本の影響力は大きくなり、日本の沖縄援助額も増大し、事実上の返還の線が強くなっている模様を述べられた。南連の公使は、日本が沖縄を知る一つの大きな窓でありその責任が重大であることを了解した。また琉球の政党事情及び世論の複雑性にも触れることができた。

ホテルに帰ると、街で夕食を採った塩野入君が出迎えて経験談を話してくれた。店頭にある日常の生活雑貨は殆んどすべてが内地からの移入品で、定価は三割位高いし、食堂の料理も内地に比して同じく二、三割高いと報告した。これに反して関税（五パーセント）の関係で、米国等から輸入する高級贅沢品は甚だしく低廉である。サービスを米軍基地へ提供し、生活必需品を本土から移入している沖縄の基地依存経済の大筋は、この夜の塩野入君の体験にも表示されていたのである。

編集後記

★Why Not Ask これはマッキンノン先生が高商時代に使用された教科書であった。当時としては一寸しゃれた装釘であった。余市から汽車通学していた編集子は秋の新学期のはじまる頃になると蘭島から乗車したマ先生と小樽駅の裏の陸橋あたりから地獄坂を学校まで一緒に登校する事があった。何を話して丘を登っていったか全然記憶がないが、頭の中で何か面白い話がないかと一生懸命英作文を考えていたようである。

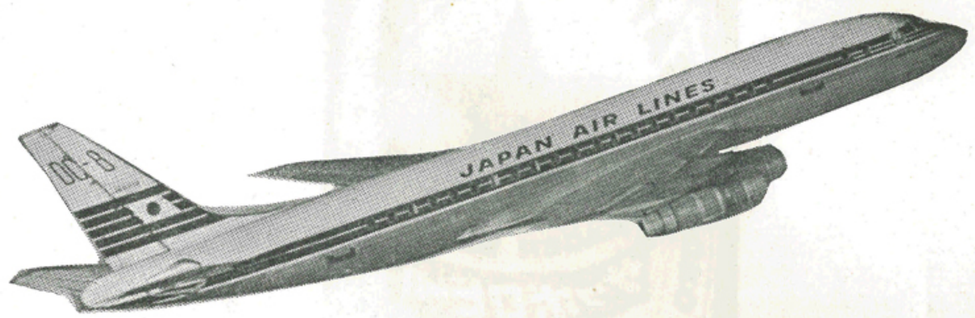
このマ先生が来訪されることについては大谷敏治先生の献身的努力と同窓生の拠金があったればこそで、師弟愛の結実がここに具現されたものであり、小樽商大の他の大学に見られない美挙といえるのではなかろうか。この美わしい事実は一つの伝統として幾十年後までも若い卒業生の語り草ともなって必らず伝えられていく事であろう。小樽では前代未聞の歓迎パーティーを催されたという。各支部それぞれに歓迎準備に多忙を極めておられる事でしょう。教えられた人は勿論教を受けなかった方も同窓生揃って心暖く迎えてあげていただき度い。

表紙絵のこと

オストラリアでの国際経営会議に参加の帰りに、マニラで買った民芸の木彫の写生です。土人の顔になっているか、どうかです。最初はコケシを構えてみるつもりでいましたが、この方が描き易かったです。

菅谷重平

世界のどこへでも お好きなときに！



ジャルパックで海外へ行こう！

チーム名	期間	旅費	出発時期
香港・マカオ・台北	7日間	179,000円	毎　月
アンコールワットと東南ア	12日間	268,000円	毎　月
ハワイ	7日間	299,800円	毎　月
南太平洋・ハワイ	16日間	688,000円	11　月
ヨーロッパ	18日間	569,000円	11・3　月
ヨーロッパ	23日間	547,000円	2　月
中近東・アフリカ	23日間	658,000円	2　月
世界一周	19日間	726,000円	11・3　月
特別コース：香港・マカオ	4泊5日	95,000円	12月31日出発 1月4日帰着

ジャルパックのお申込みは太平洋観光へどうぞ！

関西地方の方は緑丘編集部（大阪202局2161）へ御相談下さい

IATA（国際航空運送協会）公認代理店

世界中の航空会社の代理店です。日航，全日空，国内航空はもちろんです

JATA（国際旅行業者協会）会員
ASTA（米国旅行業者協会）会員
PATA（太平洋観光協会）会員
UFTAA（国際旅行業者連盟）

太平洋観光株式会社

本　社／東京都千代田区丸の内2の18岸本ビル　TEL(281) 9864～5
銀座営業所／東京都中央区銀座5丁目2番地　TEL(573)5416㈹
札幌営業所／札幌市北二条西三丁目(越山ビル)　TEL(24) 7913